

# あそびのひろば

## 実践ハンドブック

広島県教育委員会  
令和5年9月

# もくじ

このハンドブックは、「あそびのひろば」の企画・運営を通して、乳幼児の保護者に「遊びを通じて子供が学んでいること」・「遊びへの大人の関わり方」を伝える「あそびのひろば」ファシリテーターや、市町の家庭教育支援・子育て支援の行政担当者など、「あそびのひろば」に関わる皆さんの参考にしていただくために作成しました。

次の用途別の使用方法を参考にして御活用ください。

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

「遊びは学び」について  
知りたい方

第1章 「遊びは学び」について・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
1 「遊び 学び 育つひろしまっ子！」推進プラン・・	2
2 「遊びは学び」とは・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
3 乳幼児の親に伝えたい内容・・・・・・・・・・・・・・・・	4

「あそびのひろば」の趣旨  
・概要を知りたい方

第2章 「あそびのひろば」について・・・・・・・・・・	5
1 「あそびのひろば」とは・・・・・・・・・・・・・・・・	5
2 有識者からのメッセージ・・・・・・・・・・・・・・・・	6

「あそびのひろば」を企画・運営  
したい方

第3章 企画・運営のヒント・・・・・・・・・・・・・・・・	7
1 「あそびのひろば」ファシリテーターとは・・	7
2 「あそびのひろば」ファシリテーターの役割・・	8
3 親子への関わり方のヒント・・・・・・・・・・	9
4 企画・報告シートを作成してみよう・・・・・・・・	11
例1：図書館等での「読み聞かせ」	
例2：公民館等での「ふれあい遊び」	
例3：子育て世代包括支援センター等での「製作遊び」	
保護者手交用資料(5つの力・遊びへの大人の関わり方)	
Q&A	

これまでの事例を見たい方

第4章 実践事例・・・・・・・・・・・・・・・・・・	28
----------------------------	----

啓発物品・啓発資料を見たい方

資料集・・・・・・・・・・・・・・・・・・	36
家庭教育支援啓発用物品一覧	
家庭教育支援啓発用資料一覧	

---

# はじめに

---

少子化、核家族化、情報化、国際化など、社会の急激な変化を受けて、子供の育ちをめぐる環境や家庭における親の子育て環境も変化しています。先行き不透明で「予測困難な時代」を迎える中、生涯にわたる人格形成の基礎を培う「乳幼児期」から、全ての子供たちが、豊かな自然環境や地域資源に実際に触れ、主体的・創造的な遊びや直接的な体験を通じて学び、未来に向けて力強く生き抜く力を育てていくことがますます重要視されています。

広島県教育委員会では、平成 29 年2月、子供が育つ環境にかかわらず、県内全ての乳幼児に、家庭や幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園・地域型保育等において、「遊びは学び」という理念の下、乳幼児期に育みたい力の育成に向けた教育・保育が行われ、小学校以降の教育の基礎が培われるよう、本県の乳幼児期の教育・保育の基本的な考え方や、それを実現するための施策の方向性と取組内容を示した「『遊び 学び 育つひろしまっ子!』推進プラン」を策定しました。

乳幼児にとって家庭は、家族との関わり方を通じて人への基本的な信頼感を育む重要な「場」であり、家庭教育は、子供の基本的な生活習慣の習得、自立心の育成、心身の調和のとれた発達などに大きな役割を担っています。乳幼児期の子供にとって、「遊び」は探究の宝庫で、「遊び」そのものが「学び」であるという乳幼児期の教育・保育の基本的な考え方を基に、保護者が安心して自信をもって子育てができるよう、子供の育ちに関する基本的な考え方や、子供との関わり方で大切にしたい視点などについて発信し、保護者の共感的理解や実践を促すことが必要です。

そのための取組の一つとしてスタートしたのが、家庭や公園など身近な場所で気軽に取り組むことができる遊びを親子で一緒に体験し、「遊びは学び」を保護者が体験的に理解する、この「あそびのひろば」です。

令和4年3月に策定した「『遊び 学び 育つひろしまっ子!』推進プラン(第2期)」でも継承され、乳幼児教育支援センターが「あそびのひろば」を開催することに加えて、乳幼児期の子育て家庭(親子)にとって身近な地域において「あそびのひろば」が開催されるよう、その趣旨を周知するとともに、「あそびのひろば」の企画・運営を通して、乳幼児の保護者に「遊びを通じて子供が学んでいること」・「遊びへの大人の関わり方」を伝える「あそびのひろば」ファシリテーターの養成に向けて地域人材を対象とした研修の実施などに取り組むこととしています。

このハンドブックでは、「あそびのひろば」ファシリテーターの役割や、実践事例など、「あそびのひろば」を実践する際に必要な様々な情報を紹介しています。「あそびのひろば」ファシリテーターをはじめ、市町の家庭教育支援や子育て支援の行政担当者など、「あそびのひろば」に関わる多くの皆さんの参考になれば幸いです。

令和5年9月

広島県教育委員会

# 第1章 「遊びは学び」について

## 1 「遊び 学び 育つひろしまっ子！」推進プラン(第2期)



目指す乳幼児の姿

### 遊び 学び 育つひろしまっ子！

豊かに感じ気付く子、思いっきり体を動かして遊ぶ子、遊びを創り出す子、夢中でとことん遊ぶ子、心を通わせて遊ぶ子であり、「遊び」を通して子供それぞれの心と身体が発達が促され、「探究の芽」が育っている広島の子供です。

施策体系

施策1 教育・保育の内容や方法の充実

施策2 教育・保育を担う人材の確保、資質及び専門性の向上

施策3 小学校以降の教育との円滑な接続の推進

施策4 家庭教育支援の充実

施策5 乳幼児期の教育・保育を推進するための体制の構築

### 施策4 家庭教育支援の充実

- (1) 「遊びは学び」をはじめとした親に伝えたい内容の共感的理解の促進  
家庭教育啓発資料の開発・提供、情報発信
- (2) 親の育ちを応援する学びの機会の充実  
多様な場・機会を活用した保護者への学びの提供 等
- (3) 地域における家庭教育支援のための人材育成・体制整備  
地域人材の育成 等

「遊び 学び 育つひろしまっ子！」推進プラン」(広島県教育委員会ホームページ)  
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku11/list2642.html>



## 2 「遊びは学び」とは

- 乳幼児期の子供は、遊びの中で様々な体験をしながら成長していくことで、その後の生活や学習の基盤となることばの力や人と関わる力などを学び、身に付けていきます。**乳幼児にとって、普段の生活での何気ない「遊び」が「学び」そのものです。**

### ⇒広島県の乳幼児期の教育・保育の基本的な考え方

- 遊びや日々の生活の中で、発見すること（感じる・気付く力）、体を動かすこと（うごく力）、創造すること（考える力）、困難を乗り越えること（やりぬく力）、人と関わること（人とかかわる力）などを繰り返し経験することで、「探究の芽」が育まれ、これが生涯にわたって主体的に学び続けることにつながります。

### 乳幼児期に育みたい「5つの力」

#### ○感じる・気付く力

身の周りの自然、人、出来事などに心が動き、興味を持って関わる中で、その面白さ、不思議さ、美しさ、心地よさ、辛さ、悲しさ、優しさなどを感じ取る力

#### ○うごく力

自分のやりたいことへ向かって、心や身体を積極的に働かせて取り組み、自分の身体をコントロールして遊んだり、状況に応じて適切な行動をとったりする力

#### ○考える力

やりたいことを実現するために、必要な物や情報などを集めたり、実現するための方法を考えたりする力

#### ○やりぬく力

困難や失敗があってもあきらめず、自分の気持ちを立て直し、「やればできる」という気持ちを持って、粘り強く取り組み、やり遂げる力

#### ○人とかかわる力

表情や言葉などを通して、互いの思いや考えを伝え合ったり、折り合いを付けたりしながら、多様性を受け入れ、様々な人とのよい関係を築く力

### 3 乳幼児の親に伝えたい内容

広島県・広島県教育委員会は「『遊び 学び 育つひろしまっ子!』推進プラン(第2期)」において、「遊びは学び」などの、子供の育ちに関する基本的な考え方や、子供との関わり方で大切にしたい視点などについて、乳幼児の親に伝えたい内容として、発信しています。こうした内容を「あそびのひろば」に参加した保護者に伝え、各家庭での実践につなげていただきたいと思います。

《乳幼児の親に伝えたい内容(一例)》

<p><b>学びの芽生え</b></p> <p>子供は、遊びや生活の中で、好奇心や探究心を培い、「学びの芽生え」を育んでいます。知識やスキルなど見える力を伸ばすことだけを重視しすぎないことが大切です。</p>	<p><b>子供と楽しむ</b></p> <p>子供は育ちゆく独立した一人の人間です。子供を一人一人の人格を持つ存在として尊重し、子供と触れ合ったり、一緒に遊んだり、考えたりするなど、楽しい経験を子供と一緒に共有することが大切です。</p>	<p><b>成長のペースを見守る</b></p> <p>子供にすぐに答えを教えてしまうなど、子供自身で考えたり、挑戦したりする機会を奪ってはいませんか。自分でやりたいという子供の気持ちを受け入れ、子供の成長のペースに合わせて、子供のできないところを援助する姿勢が大切です。</p>	<p><b>子供が幸せになる</b></p> <p>競争に勝つことが子供を幸せにするものではありません。子供たちが現在や将来に夢や希望を持ち、その実現に必要な力を身に付け、いつでもチャレンジすることができるよう、生きていく力を育むことが求められています。</p>
<p><b>子供たちの未来を切り拓く力</b></p> <p>学力テストなどでは数値化できない「非認知能力」とも呼ばれる「社会情動的スキル」が、「未来を切り拓く力」として注目されています。意欲、協調性、粘り強さ、忍耐力、自制心、コミュニケーション能力など数値化しにくい力と、認知能力の両方の力を、相互に関連しあって高めていくことが大切です。</p>	<p><b>遊びは学び</b></p> <p>感じる・気付く力</p> <p>人とかわる力</p> <p>遊びを通して総合的に育む</p> <p><b>5つの力</b></p> <p>うごく力</p> <p>やりぬく力</p> <p>考える力</p>		<p><b>絵本でコミュニケーション</b></p> <p>絵本を通して触れ合う時間は、親子にとって楽しいひとときとなり、子供の家族への信頼が深まります。子供が絵本の楽しさと出会えるきっかけづくりをすることが大切です。</p>
<p><b>愛着の形成</b></p> <p>子供は、保護者など特定の大人との継続的な関わりにおいて、愛され、大切にされることで、情緒的な絆が深まり、情緒が安定し、人への信頼感が育まれます。特にスキンシップは大きな役割を果たします。</p>			<p><b>周りに相談する力</b></p> <p>子供は社会の宝であり、社会全体で子供と子育てを応援していく必要があります。保護者が個々の家庭で悩みを抱え込まず、地域や行政など外部へ相談することも大切です。</p>
<p><b>ありのままの姿を認める</b></p> <p>子供には一人一人異なる資質や特性があり、その成長には個人差があります。子供の多様な感情や行動を受け止め、温かく見守り、ありのままの姿を認めるなど、その子の一番よいところを伸ばしていく子育てをすることが大切です。</p>	<p><b>デジタル時代の子育て</b></p> <p>スマホ等のデジタル機器は、いまや生活に欠かすことはできません。ただし、その長時間の使用は子供の心身の発達へ影響を及ぼすことが懸念されています。乳幼児期の子供には「直接的で具体的な体験を伴う遊び」が大切です。スマホ等との上手な付き合い方を考えましょう。</p>	<p><b>基本的な生活習慣を育む</b></p> <p>家庭は、子供が心身を健康に保つための生活の基盤となる基本的な生活習慣を定着させる大切な場です。子供は、身近な大人の支えによって、自ら基本的な生活習慣を身に付けることで、自己発揮と自己抑制がともに機能し、自律性が育まれていきます。</p>	<p><b>子供とともに成長</b></p> <p>子育てに、「これが正しい」という唯一絶対の正解はありません。完璧にはいかない「子育てという営み」の中で、子供とともに保護者自身も成長していきましょう。</p>

## 第2章 「あそびのひろば」について

### 1 「あそびのひろば」とは

#### 目的

家庭や公園など身近な場所で気軽に取り組むことができる遊びを親子で一緒に体験し、「遊びは学び」を保護者が体験的に理解する場であり、保護者に「遊びを通じて子供が学んでいること」・「遊びへの大人の関わり方」が伝わることを目的としています。

つまり、親子で一緒に楽しみながら「遊びは学び」を体験する場です。

#### 対象

乳幼児期の子育て家庭（親子）

#### 場所

乳幼児期の子育て家庭（親子）にとって身近な場所

例えば、

- ・親子の集まるイベントで…
- ・幼稚園や保育所等で…
- ・ネウボラや子育て包括支援センター、児童館等で…
- ・図書館や公民館等の社会教育施設で…
- ・ショッピングセンターなど商業施設で…
- ・公園や屋外の自然の中で…



「あそびのひろば」に決まった場所はありません。  
すべてがまるごと“遊びの場”であり“学び場”です。

#### 遊びの五原則

- 1 遊びは楽しくなければならない
- 2 遊びはそれ自体が目的であるべきで、何かほかの目的（例えば、文字を読むため、英語を話せるようになるため）であってはならない。
- 3 遊びは遊ぶ人の自発的な選択によるものでなくてはならない。
- 4 遊びは遊ぶ人が能動的に関わらなければならない。遊ばせてもらっていたら遊びではない。
- 5 遊びは現実から離れたもので、演技のようなものである。子供が何かの「ふり」をしていたらそれは遊びである。

## 2 有識者からのメッセージ

子供は毎日どんどん成長しています。成長するのは、身体だけではなく、ことばも、知識も日々成長していきます。でも、大人は成長に感動するより、つつい周りの子供と比べてしまいます。お隣の子供は2歳でことばを話したのに、うちの子はまだ話しはじめていないとか、近所の子はもう英語塾に行っているけど、うちの子はこのままでよいのかしら、など。

学校に行く前の時期は子供にとってとても大事です。体を動かし、手先を使うことは脳の発達を促します。また、学校で学ぶことの準備をする時期でもあります。でも、それは、塾に行かせて漢字を覚えさせるとか、小学校で習う掛け算や割り算を先取りして家で覚えることが大事ということではありません。子供は塾で教えられて日本語を覚えているわけではありませんね。単語の意味も、単語をつなぐ規則(文法)も、全部自分で発見し、考えて覚えていきます。子供は、ものすごい考える力と学習する力をもっているのです。子供は遊びや生活の中から様々なことを発見し、学ぶ力をもっています。ことばについても、数のしくみについても、人との関わり方についても…子供は自分一人でも遊びますが、大人と一緒に話をし、遊ぶことで、発見が促され、一人で遊ぶよりたくさんのかことを学びます。また、新しいことを学ぶ力も、大人との遊びで育まれます。

この「あそびのひろば」で、それを実感していただければと思います。

慶応義塾大学 環境情報学部 教授  
今井むつみ 先生



子供たちはとにかく好奇心がいっぱいで、“いろんなことを知りたい”、“やってみたい”という気持ちがあります。そして好奇心いっぱいの子供たちは、見る、聞く、触れる、かぎまわる、なめてみる、など5感を使って常に情報を集めようとします。これは『探索行動(たんさくこうどう)』と呼ばれ、ヒトが自然の法則や社会を学ぶための第1歩となります。子供たちが自分から起こす探索行動は、日々の生活(食事をしたり、服を着替えたり)や遊び(かくれんぼ、鬼ごっこ)の中にあります。

「あそびのひろば」では、「遊びの中に学びがある」ことを体験する場として、大人と子供と一緒に遊び、やり遂げるといふ工夫がされています。ある研究によると、大人が“子供と遊ぶこと”によって子供は“遊ばれること”を学び、“遊ばれること”を学んだ子供は、今度は自分たちが遊ぶために自ら探索行動ができるようになるそうです。今日の体験を機会に、大人がしっかり子供と遊ぶことを楽しみ、自分(大人)も幸せな気持ちになることをお願いしたいと思います。そうすることで、子供たちは自然の法則や社会を学ぶことにつながっていくのだらうと思っています。

県立広島大学 保健福祉学部 教授  
島谷康司 先生





## 第3章 企画・運営のヒント

### 1 「あそびのひろば」ファシリテーターとは

乳幼児の保護者が「遊びは学び」を体験的に学び、主体的に各家庭での実践につなげていけるよう、「あそびのひろば」の企画・運営を通して、乳幼児の保護者に、「遊びを通じて子供が学んでいること」・「遊びへの大人の関わり方」を伝える者です。

地域において「あそびのひろば」を主体的に開催したり、市町の家庭教育や子育て支援の担当課等が開催する「あそびのひろば」へ協力したりするなど、「あそびのひろば」の「企画」、「場づくり」、「進行」を担うのが、「あそびのひろば」ファシリテーターの役割です。

#### ファシリテーターとは

人々の参加を促進し、対話を育み、学びや創造を容易にするよう支援し、舵取りをする役割を担う人（進行役）です。学習者が安心して学習活動を行うに当たり、その学習成果が最大限に高まるよう、工夫しお手伝いします。

一般的に、ファシリテーター（英: facilitator）とは、「支援し、促進する人」という意味を持ち、「容易にする、円滑にする、スムーズに運ばせる」という意味の動詞、ファシリテート（英: facilitate）に由来しています。（facilitate の語源であるラテン語 Facilis は、「easy」を意味します。）

#### 実践者のメッセージ

「あそびのひろば」に参加された親が、「今日は子供を叱らなかったぁ!」と感想を残されたのが印象に残っています。子連れで出かけるだけでも大変。その上に、公園でも、図書館でも、実家でも、周りに気を遣ってしんどい。ほっとできる居場所がなかなかないと日頃の悩みを語られました。子連れのしんどさは、子育てを経験した人ならだれもがきっと覚えがあると思います。「でも、今日は親子で開放的な時間をすごせた」という言葉に、子育て環境は社会でつくっていくもの、と教えられた気がしました。

「子育てが不安」と子供の育ちを確認されることもあります。ある時、「あそびのひろば」に参加された親が「この子は、やりたいことを発見すると熱中して、周りが見えなくなるけど大丈夫かな。」とポロっと言われました。その後も何気ないおしゃべりをしながらその子の様子を眺めていると、気付けば私も親も「わ、かわいい!かわいい!」とふたりで連呼。大丈夫、みんな今、成長している途中だから。子供も親も、そして私自身も。そんなことに気付かせてもらえたひとときでした。

親にとって、わが子の今と一緒に感じとって、かわいさや成長に気付いてくれる「お隣さん」の存在は、心強いと思います。その存在のお陰で、すごく大変な子育てを乗り越えられるし、「わが子やっぱりカワイイ」って感情が増し増しになるんじゃないかなあとと思います。私たちも子供たちの遊ぶ姿や親たちに出会えてハッピーです。

親が安心して子育てができる、子供の成長を喜び合える社会の仕組みとしても、広島県じゅうに「あそびのひろば」を一緒に広げていきましょう!

「あそびのひろば」ファシリテーター  
NPO 法人ほしはら山のがっこう  
ふるさと自然体験塾長 浦田 愛さん



## 2 「あそびのひろば」ファシリテーターの“3つの役割”

### 役割 1

### 「あそびのひろば」の“企画”

様々な主体と連携・協働し、親子が参加しやすい日程や会場、興味を引くようなプログラムなど、乳幼児の親子の目線で“企画”をしましょう。

- 必要に応じて、行政関係者、企業、教育・福祉の施設関係者や他のボランティアなどと連携・協働
- 親子が参加しやすい日程を決め、遊びの内容に応じた会場を選定
- 保護者に「遊びを通じて子供が学んでいること」・「遊びへの大人の関わり方」を伝える仕組みづくり
- 必要な人に届けるための広報

### 役割 2

### 「あそびのひろば」の“場づくり”

「あそびのひろば」では子供が遊びに没頭し、保護者が安心して関わり、見守ることができる“場づくり”をしましょう。

- 乳幼児とその保護者が主体的に楽しめる雰囲気づくり
- 親子のふれあいや参加者間の交流など、それぞれの関係づくり
- 安心安全で、実施する遊びに適した環境づくり

### 役割 3

### 「あそびのひろば」の“進行”

参加した乳幼児の親子の様子を見ながら適切な声掛け・対応を行うことで、親子の学びを支援しましょう。

- 「あそびのひろば」のコンセプトを保護者と共有
- 「遊びは学び」の視点を持って、家庭でも保護者が子供の遊びと学びを支えることの大切さについての発信
- 子供の発達段階や行動特性に応じた対応や声掛け

### 3 親子への関わりのヒント

乳幼児の保護者が「遊びは学び」を体験的に学び、主体的に各家庭での実践につなげていけるよう、「あそびのひろば」ファシリテーターは、プログラム展開の中で、次のような視点をもって親子へ関わり、適切な声掛けや対応を行うことで、親子の成長や育ちを支えましょう。

#### ● 子供が主体的に遊んでいる時に増やしたい関わり方

- ・子供の行動を（具体的に）褒める（適切な行動＋一般的賞賛）

「ここに折り紙を貼ってみたのね、工夫していてすごいね。」

「〇〇貸してあげて、やさしいね。」

⇒ 大人が何を良いと思うか子供にわかりやすく、子供の良い行動を増やすことにつながる。

- ・子供の言葉を繰り返したり、言い換えたりする

「（子供）スイカを描いたよ。」「（大人）スイカを描いたのね。」

「（子供）カエルさん、ケロケロ。」「（大人）カエルさん、ケロケロって鳴くね。」

⇒ 子供に、大人が話を聞いていることや、子供を受け入れて理解していることを示す。子供の言葉に、言葉を加えたり少しニュアンスを変えて繰り返すことにより、子供の会話の上達にもつながる。

- ・子供の行動を言葉にする（実況中継する）

「お魚を作っているんだね。」「シールで模様を作っています。」

「りんごとぶどうと桃、果物の絵を描いています。」

⇒ 子供の行動に対して大人が興味をもっていることを示すことになり、子供自身も、取り組んでいることに対して集中力が保たれる。さらに、大人の言い方を聞いて、ものやことの認識につながる。

#### ● 肯定的な注目を与える方法の例

- ・ほめる 「上手に作っていて、すごいね。」

- ・励ます 「あともう少し、頑張って！」

- ・その行動に気付いていることを知らせる 「難しいことも上手にやっているね。」

- ・ジェスチャー ほほえむ、拍手、「OK」・「グッド」サインなど

- ・感謝する 「元のところに戻してくれて、ありがとう。」

- ・興味や関心を示す 「かっこいいね。」

- ・スキンシップ 肩に軽く手を置く、そっと頭をなでる、ハイタッチ

- ・次の活動に誘う （楽しそうだね、やってみよう!）

## ●ほめ方のコツの例

- ・タイミング（25 %ルール、始めた時、途中までしたときなど）
- ・視線・からだ（近づいて、目の高さをあわせて）
- ・表情（ほほえんで、穏やかな表情で）
- ・声の調子（嬉しく感じていることが伝わるように、穏やかで明るく）
- ・ことば（短く、簡潔明瞭に、皮肉や批判は避けて）
- ・行動をほめる（えらいね、すごいね、のほめ言葉の前に、行動を付け加える）
- ・効果的にほめる（子供の性格や感じ方、年齢にあわせたほめ方を）
  - － 派手にほめられたい（人前で堂々と伝える）
  - － 静かに認められたい（見ているよ、気付いているよとそっと伝える）

## 4 企画・報告シートを作成してみよう

ここでは、「あそびのひろば」の企画シート及び報告シートの例を掲載していますので、参考としてください。「あそびのひろば」の実施に当たっては、こういった内容で行うかなど、関係者と打ち合わせを行い、事前にしっかり計画を練ってください。参加者の実態に合わせて、遊びや準備物、ファシリテーターや支援者の人数が変わる場合もあります。事前にしっかり計画しておく、当日余裕を持って進めることができます(ここに掲載しているのは、あくまで参考です。実際の企画に当たっては、時間、会場、参加者の状況を考慮して、作ってみましょう!)

なお、企画シート及び報告シートの様式は、広島県教育委員会あそびのひろばホームページからダウンロードし、御活用ください。

- 企画・報告シート例1:図書館等での「読み聞かせ」
- 企画・報告シート例2:公民館等での「ふれあい遊び」
- 企画・報告シート例3:子育て世代包括支援センター等での「製作遊び」
- 保護者手交用資料:「遊びは学び」・「5つの力」の説明  
「遊びへの大人の関わり方」のヒント

(例1:図書館等での「読み聞かせ」)

### 「あそびのひろば」企画シート

日時	令和〇年〇〇月〇〇日(〇) 10:00 ~ 10:30 (所要時間 30分) ※毎月1回第〇水曜日
会場	〇〇市立図書館
行事名	あそびのひろば「おひざにだっこのおはなし会」
対象	乳幼児期の親子(5組程度)
ねらい	○親子と一緒に、絵本に親しみ、楽しみながら、保護者が「遊びは学び」を体験的に理解する。 ○保護者に、「遊びへの大人の関わり方」について共感的理解を促し、実践につなげる。 ○子供が、絵本で様々なことばにふれたり、情景を思い浮かべながら、考える力を育む。
準備物	別紙「準備物一覧」のとおり。
連携先	〇〇市立図書館、〇〇市教育委員会生涯学習課
広報	市の広報誌、ホームページ
支援者	「あそびのひろば」ファシリテーター(名前) 〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇

時間	プログラムの流れ	留意点
10:00 (2分)	<導入> ○「あそびのひろば」趣旨等説明	○リーフレット乳児シリーズ⑦読み聞かせ編、「遊びへの大人の関わり方」ヒント・「遊びは学び」「5つの力」の説明、アンケートを手交し、終了後、アンケートを提出してもらうよう伝える。 ○写真を撮る場合は、予め了解を取る(肖像権) ○和やかな雰囲気づくりに配慮する。
10:02 (26分)	<読み聞かせ>	○様々な年齢層や興味に対応できるように幅広く絵本を選定する。 ○参加した子供達の年齢や反応を見ながら、絵本を選んだり、子供の状況を見ながら、「見てみたい絵本ある?」と問いかけたりする。 ○子供の状況によっては、以下のような声掛けを行う。 ただし、声掛けにより、真剣に聞いている子の妨げにならないよう気を付ける。 ・ページを次々進めようとしたら・・・「手伝ってくれるの?ありがとう」 ・大声で反応してくれたら・・・「そうだね、よく知っているね」 ・立ち歩き始めたら・・・「動きながら聞いていてもいいよ」など。
10:28 (2分)	<振り返り>	○余韻が残るよう配慮する。 ○解散時に「あかちゃんへことばのプレゼント」を保護者に手交する。 ○要望があれば、家で読み聞かせする時のヒント等を紹介する。 ・子供が絵本に興味をもっているようであれば声をかけてみる ・子供が言葉を発したら繰り返したり、やり取りを楽しむ ・保護者にとっても癒しの時間になるなど (あまり押し付けにならないよう留意する) ○アンケートへの協力依頼
10:30	<終了>	

○啓発用品の借用希望 (あり・なし)

⇒希望の物品の番号を記入してください。

--	--	--	--	--

○啓発資料の送付希望 (あり・なし)

⇒希望の資料の番号と部数を記入してください。

33				
20冊				

「あそびのひろば」企画シートの提出にご協力ください。事例を収集し、県HPやSNSでの周知・広報等を行います。  
広島県教育委員会 乳幼児教育支援センター 電子メール: kyoyoujic@pref.hiroshima.lg.jp

## (1)「あそびのひろば」趣旨

皆さんこんにちは。(お手元にありますリーフレットにも記載しておりますが、)「遊びは学び」、どこかで聞いたこと、見たことがありますでしょうか。

ご承知のとおり、乳幼児の生活のほとんどは、「遊び」によって占められており、「遊び」の中で、色々なことに気付いたり、考えたり、工夫したり、友達、きょうだい、大人と関わりながら、たくさんの事を学んでいます。

読み聞かせはその代表的なものの一つです。親の温もりに触れながら、絵本の中の世界で様々な思いを巡らせたり、新しい何かに気付いたり。言葉は分かっていなくても、しっかりと親の声を聞いています。

県では、「遊び」はまさに探究の宝庫で、「遊びを通して様々なことを学んでいる」ということを「遊びは学び」として、保護者の皆様をはじめ、多くの方に対し、お伝えしているところでございます。

子供は自分一人でも遊びますが、大人と一緒に話したり、遊ぶことで、発見が促され、一人で遊ぶよりたくさんの方の事を学びます。また、新しいことを学ぶ力も、大人との遊びで育まれます。ぜひ絵本を通して、たくさんコミュニケーションを取ってあげてください。

この「あそびのひろば」を通じて、そうしたことを少しでも感じていただければと思います。それでは、最後までゆっくり、お楽しみください。

## (2) 読み聞かせ

<準備する絵本>

- あかちゃんのおと
- あがりめさがりめ
- おつきさまこんばんは
- だるまさんが
- がたんごとんがたんごとん
- しろくまちゃんのほっとけーき
- たまごのあかちゃん
- どうぞのいす
- こいぬがうまれるよ
- しりとりあそびしろとくろ
- はじめてのおつかい
- ペレのあたらしいふく

(例1:図書館等での「読み聞かせ」)

## 「あそびのひろば」報告シート

日時	令和〇年〇〇月〇〇日(〇) 10:00 ~ 10:30 (所要時間 30分) ※毎月1回第〇水曜日
会場	〇〇市立図書館
行事名	あそびのひろば「おひざにだっこのおはなし会」
参加者	5組(子供5名、保護者5名)
ねらい	○親子で一緒に、絵本に親しみ、楽しみながら、保護者が「遊びは学び」を体験的に理解する。 ○保護者に、「遊びへの大人の関わり方」について共感的理解を促し、実践につなげる。 ○子供が、絵本で様々なことばにふれたり、情景を思い浮かべしながら、考える力を育む。
準備物	別紙「準備物一覧」のとおり。
連携先	〇〇市立図書館、〇〇市教育委員会生涯学習課
広報	市の広報誌、ホームページ
支援者	「あそびのひろば」ファシリテーター(名前) 〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇

時間	プログラムの流れ	実施中の様子
10:00 (2分)	<導入> ○「あそびのひろば」趣旨等説明	
10:02 (26分)	<読み聞かせ>	○最初は参加者が少なく、読み聞かせを開始してから、徐々に参加者が増え始めた。参加者は全員最後までおられた。 ○また、途中から立ち歩きだして、室内の他の絵本に興味を示す子がいた。
10:28 (2分)	<振り返り>	
10:30	<終了>	

参加者の声、感想など ○子供がめずらしく集中して聞いていた。家でも時間のある時はできるだけ、絵本を読んであげたい。 ○説明や配付資料が勉強になった。できれば、次回も参加したい。
今回の実施に際して工夫した点、気づき、ファシリテーターの感想など ○口頭での「あそびのひろば」趣旨説明とともに、リーフレットや、「大人への遊びの関わり方」ヒント、「遊びは学び」・「5つの力」についての説明資料を手交していたため、保護者への理解が深まっているようであった。 ○開始当初は、参加者が少なかったことから、子供に聞いてみたい本を選ばせてあげるよう促した。 ○途中から参加者が増えてきたが、読み聞かせ中であつたため、雰囲気を壊さないよう資料配付や説明は、終了時に行うことで対応した。 ○読んでいる途中に立ち歩きだして、室内の他の絵本に興味を示す子がおり、保護者が申し訳なさそうに、座らせようとしていたので、子供にその絵本を渡し、保護者に動きながら楽しんでいただいていた旨をお伝えした。

「あそびのひろば」実践後には、報告シートの提出(活動中の写真等を含む)にご協力ください。事例を収集し、県HPやSNSでの周知・広報等を行います。

広島県教育委員会 乳幼児教育支援センター 電子メール: kyoyoujic@pref.hiroshima.lg.jp



## 「あそびのひろば」企画シート

日時	令和〇年〇〇月〇〇日(〇) 10:30 ~ 11:00 (所要時間 30分)
会場	〇〇公民館
行事名	あそびのひろば「親子のふれあい遊び」
対象	乳幼児期の親子(約 10 組)
ねらい	○親子で一緒に身体を使ったコミュニケーションや諸感覚を使った身体遊びの楽しさを味わいながら、保護者が「遊びは学び」を体験的に理解する。 ○保護者に、「遊びへの大人の関わり方」について共感的理解を促し、実践につなげる。 ○諸感覚を使った身体遊びの楽しさを体感し、スキンシップを通して子供に安心感をもたせ、愛着関係を育む。
準備物	別紙「準備物一覧」のとおり。
連携先	〇〇子育てサークル、〇〇市こども家庭課
広報	市の広報誌、ホームページ
支援者	「あそびのひろば」ファシリテーター (名前) 〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇

時間	プログラムの流れ	留意点
10:30 (5分)	<導入> ○挨拶・「あそびのひろば」趣旨・流れ等説明 ○自己紹介	○リーフレット乳児シリーズ⑤いないいないばあ編、「遊びへの大人の関わり方」ヒント・「遊びは学び」「5つの力」の説明、啓発資料「ふれあい体操」・「スキンシップがいらしい」、アンケートを手交し、終了後、アンケートを提出してもらうよう伝える。 ○写真を撮る場合は、予め了解を取る。(肖像権) ○和やかな雰囲気づくりに配慮する。 ○必要に応じて、参加者同士での自己紹介を促す。 ○親子で一緒に歌を歌いながら体操すること、難しい動作はなく、ファシリテーターの真似をすればいいことを伝える。 ☆親子の名前を呼び、「今日は一緒に遊ぼうね」と一声かける。 ☆できない場合ややりたくない場合には、子供のペースに応じて無理に参加しなくてもいいことを伝えると不安なくスタートできる。
10:35 (20分)	<ふれあい遊び> ○どんぐりころころ(4分) ○森のくまさん(4分) ○ぶんぶんぶん(4分) ○ねこふんじゃった(4分) ○ぞうさん(4分)	○危ない時以外は、子供の行動を制止せず、見守る。 ○一緒に思い切り身体を動かして楽しむ。 ○成長段階に応じて、出来るところまで行う。 ○向かい合っただけの体操は、目と目を合わせてコミュニケーションを更に深める。 ○それぞれの遊びの後に親が子供を一度抱きしめて、親子のふれあいを深める。 ○ほめ言葉など、親子への声かけを適宜入れながら進める。 《ほめポイント》 ※その都度ほめる。 ・できた、少しでもできるようになった、チャレンジした、あきらめず頑張ったなど 《声かけ例》 いい例:気持ちいいね、楽しいね、すごいね、最後までがんばったね、家でもやってみてねなど 悪い例:ちゃんとして、なんでできないの、皆はできているよ、など
10:55 (5分)	<振り返り>	○活動中の子供の活動の様子や言葉などを紹介する。 ☆もし感想を聞く場合も、話したくない人は無理に話さなくてもいいことを伝える。 ○アンケートへの協力依頼。
11:00	<終了>	○次回の案内

○啓発用物品の借用希望 (あり・なし)

⇒希望の物品の番号を記入してください。

--	--	--	--	--

○啓発資料の送付希望 (あり・なし)

⇒希望の資料の番号と部数を記入してください。

⑥	⑫			
20 枚	20 枚			

## (1) 「あそびのひろば」趣旨

皆さんこんにちは。(お手元にありますリーフレットにも記載しておりますが、)「遊びは学び」、どこかで聞いたこと、見たことがありますでしょうか。

ご承知のとおり、乳幼児の生活のほとんどは、「遊び」によって占められており、「遊び」の中で、色々なことに気付いたり、考えたり、工夫したり、友達、きょうだい、大人と関わりながら、たくさんの事を学んでいます。

ふれあい遊びでは、親子で目と目で見つめ合ったり、肌が触れ合って幸せな気分になったり、動く楽しさを感じたり、身体を動かすときの歌や歌詞が好きになったりもします。

県では、「遊び」はまさに探究の宝庫で、子供は「遊びを通して様々なことを学んでいる」ということを「遊びは学び」として、保護者の皆様をはじめ、多くの方に対し、お伝えしているところでございます。

子供は自分一人でも遊べますが、大人と一緒に話したり、遊ぶことで、発見が促され、一人で遊ぶよりたくさんのお話を学びます。また、新しいことを学ぶ力も、大人との遊びで育まれます。ぜひ親子での触れ合いを通して、たくさんコミュニケーションを取ってあげてください。

この「あそびのひろば」を通じて、そうしたことを少しでも感じていただければと思います。それでは、最後までゆっくり、お楽しみください。

## (2) ふれあい遊び



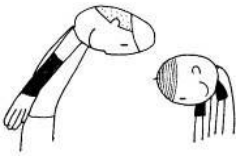
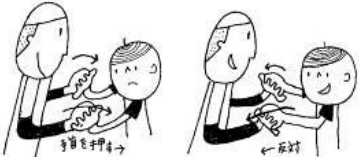
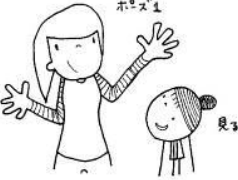

### 1 プログラムの概要

- ① 内容 親子ともによく知っている童謡や唱歌に合わせて親子のスキンシップがとれる体操を行う
- ② 場所 周りに障害物がない室内や公園など
- ③ 時間 20分前後
- ④ 準備物 なし

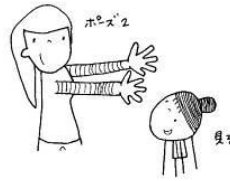
### 2 ねらい

- ・親子の身体を使ったコミュニケーションづくり。
- ・親子の愛情や信頼関係を更に深める。
- ・諸感覚を使った身体遊びの楽しさを体感する。

3 プログラムの進め方

プログラム内容	保護者の関わりのポイント
<p>(導入)</p> <p>・親子で一緒に5曲の歌を歌いながら体操をすることを伝える。</p>	<p>・ 難しい動作はなく親の真似をすればいいこと、簡単にできることを伝えると不安なくスタートできるでしょう。</p>
<p><b>■ 手首運動</b> ♪どんぐりころころ</p> <p>♪どんぐりころころどんぶりこ ※ 両手とも拳を握って、両手をくるくる回す。</p>  <p>♪お池にはまってさあ大変 ※ 反対に回す。</p>  <p>♪どじょうが出てきてこんにち ※ 親子で向きあって一礼する。</p>  <p>♪坊ちゃん一緒に遊びましょ ※ 向きあったまま両手をつないで、手首を曲げたり、反らしたりする。</p> 	<p>・ 手首をしっかり動かそうと伝え、子供のやる気を引き出しましょう。</p> <p>・ 向かい合って動作を実施すると、子供が真似をしやすいです。</p> <p>・ 手首回しが上手くできたらほめてあげましょう。</p> <p>・ 手首回しが難しいようならテンポをゆっくりして行いましょう。</p> <p>※ 慣れてきたら「♪どんぐりころころどんぶりこ〜」、「♪お池にはまってさあ大変〜」と、最後の部分を伸ばして歌いながら手首回しを早く回数を多くして楽しみましょう。</p>
<p><b>■ 上肢ストレッチ</b> ♪森のくまさん</p> <p>♪ある日(ある日) ※ 親が両手上肢を伸ばしてポーズ。 &lt;例&gt;</p>  <p>♪森の中(森の中) ※ 子供が動いて両手の平を合わせる。</p> 	<p>・ 親は大きく動いて楽しさを表現しましょう。</p> <p>・ タイミングが合わなくても、親子のふれあいを楽しみましょう</p> <p>・ 親がポーズを取って子供を待つ際、笑顔で迎えてあげましょう。</p>

♪ 熊さんに(熊さんに)  
※ ポーズを変える。



♪ 出会った(出会った)  
※ 子供が動いて両手の平を合わせる。



♪ ラララララララ~ / 花咲く森の道熊さんに会った  
※ 親子で向かい合って、  
両手を合わせて手拍子する。



## ■ 早歩き運動 ♪ ぶんぶんぶん

♪ ぶんぶんぶん蜂が飛ぶ  
※ 親は立って動かず、子供が蜂になって、  
親の周りを早歩きで回る。



♪ お池の周りで野ばらが咲いたよ  
※ 反対に回る。



♪ ぶんぶんぶん蜂が飛ぶ  
※ 子供が止まって、  
両手人差し指を構える。



※ 親または進行する人が体の部位をコールする。  
子供はコールした部位を人差し指で刺し、  
親は刺されないように手でブロックする。

【ルール説明】 <例:おなか>  
「おなかといったらおなかをさしてね」  
と、実際に動作を見せながら説明する。  
それが理解できたら、「親が手でブロック  
するので、早く刺してね」と次のルールを  
説明する。



・ 向かい合うポジションだけでなく後ろ向きになって手を後ろに差し出す、脚の間から手を差し出す、動いて別の場所へ移動して手を出す、高く手を上げ、子供がジャンプして手を合わすなどポジションを変化させたりして楽しみましょう。

※ 子供が慣れてきたら役割を交代する提案をするとよいでしょう。

~役割を交代した後は~

- ・ 子供がなかなかポーズ出来ない場合は、どんなポーズをしてみたいか子供の考えを聞いてあげましょう。
- ・ 子供の考えたポーズが親の真似の場合でもポーズをやろうとしたことを、また、オリジナルだった場合はよく考えたねとほめてあげましょう。
- ・ 途中、子供が全力で走って移動することがあった場合親も、全力で追いかけて応えてあげましょう。

- ・ 「さあ!蜂に変身しようね」と子供の興味と理解を高めながら始めましょう。
- ・ 子供がはしゃいで回ったら楽しさを感じていると理解して、無理に止めずに一緒に楽しみましょう。

- ・ (目を回さないためにも) 反対に回ろうと声をかけましょう。
- ・ 声をかけても一方向に激しく回り続けたり、止まらない時は体を持って止めて一度クールダウンしましょう。  
この時、いきなり叱るのではなく目が回ってしんどくなることや次の動作がもっと楽しいことを伝えましょう。

- ・ ストップ!と声をかけ、人差し指を示して「これが蜂の針だよ」と教えると分かりやすいでしょう。

- ・ 部位の替え方は子供が手の届きやすくわかりやすい場所からにし、頭など手が届かない部位の時は親が座って行いましょう。
- ・ 親が刺された時やブロックできた時はオーバーにリアクションしましょう。
- ・ 子供が素早く刺すことが出来た時は上手だねとほめてあげましょう。
- ・ ルールを守ることも、親子で楽しむことを意識しましょう。

※ 慣れてきたら役割を交代してみない?と自主性を引き出す声掛けをしてみましょう。

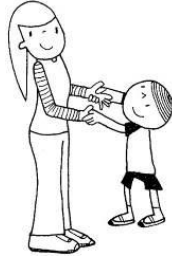
## ■ 心拍数アップ ♪ ねこふんじやった

♪ 猫ふんじやった猫ふんじやった 猫ふんじやふんじやふんじやった

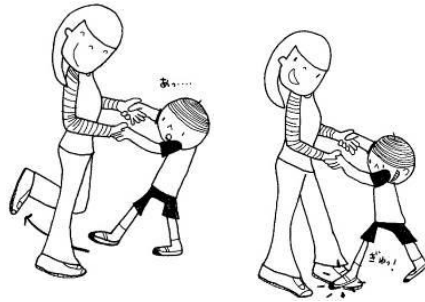
猫ふんじやった猫ふんじやった 猫ふんじやふんじやふんじやった  
※ 親子で手をつなぐ。

### 【ルール説明】

- ・ 子供は頑張っ親の足を踏もうとして、親は踏まれないように頑張っ逃げるというルールを説明する。



※ 子供が親の足を踏み、親は踏まれないように逃げる。

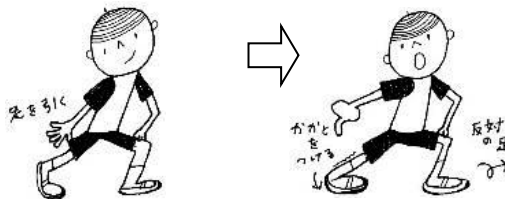


## ■ 全身ストレッチ ♪ ぞうさん

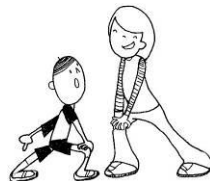
### ● ひとりで

♪ ぞうさん ぞうさん お鼻が長いのね そうよ 母さんも長いのよ

- ① 片足を後ろに引き、ゆっくり踵をつけて、ふくらはぎをストレッチ。



脚を変える。



- ② 片脚を横に伸脚し、踵をつけてつま先を上げ、脚の内側をストレッチ。



- ・ ♪ ねこふんじやったの歌と一緒に歌って始めるとよいでしょう。

- ・ 子供の動きが俊敏だったり、集中していたり、工夫している様子がみられたらしっかりほめてあげましょう。

- ・ 親が足を踏まれたり、踏まれなくても時間を見計らってストップをかけましょう。
- ・ 子供がすぐやめない時は抱きしめるとよいでしょう。
- ・ ストップをかけても足を踏もうとする時は、すぐダメ出しをせず、クールダウンして、気持ちを聞きましょう。その後ゲームが終わって踏むのはルール違反であることを伝えるとよいでしょう。

- ※ 慣れてきたら役割を交代してみない?と自主性を引き出す声掛けをしてみましょう。

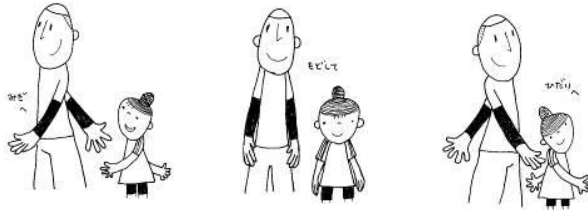
- ・ 役割を交代した場合、子供が逃げるのに慣れるまで、親はゆっくりと動きましょう。
- ・ うまく逃げる事ができたら「上手だったね」とほめてあげましょう。

- ・ 「ぞうの長い鼻のように体を伸ばしていこうね」と声掛けをして始めると活動がイメージしやすいでしょう。
- ・ 親が動作を示して真似してもらいましょう。

- ・ 上手に出来た場合は「よく伸びているね」「上手だね」とほめてあげましょう。
- ・ なかなかできない場合は無理にさせようとせず、できたところまでを認めてほめましょう。

- ・ 上手に出来た場合は「よく伸びているね」「上手だね」とほめてあげましょう。
- ・ なかなかできない場合は無理にさせようとせず、できたところまでを認めてほめましょう。

- ③ 腕を伸ばしてゆっくり右後方へひねり、腰のストレッチ  
体を戻して、左後方へ体をひねる。



●ふたりで

- ④ 親子で向かいあって両手をつなぎ引っ張る→腕を後方に引  
いて胸のストレッチ。



- ⑤ 親子が横に並び下で右手と左手をつなぎ、  
左手と右手を頭上でつなぎ体側のストレッチ。



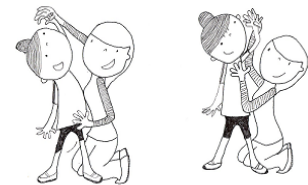
- ⑥ 親子で背中合わせになり、お尻をつけて親が子供の両手を持  
って引っ張って背中に乗せて背中の中のストレッチ。



- ・ 親が反対にひねって、顔を見合せてニコッと笑顔を見せるのも楽しいでしょう。
- ・ 「よく伸びているね」「気持ちいいね」と声をかけてあげましょう。

- ・ 引っ張りすぎると子供が前に動くので力加減を調整しましょう。

※ 背の高さなどで、この動作が難しい場合は、片手を脇に合わせて頭上に伸ばし、親が脇を上から下へなで下す動作に変えましょう。



- ・ 子供が高さで怖がる時は、親が腰を落として片脚の膝を床につけて高さを低くして行うとよいでしょう。

ふりかえり

- ・ 全体を通しての感想を子供に聞いてみましょう。
- ・ 楽しかったね、またやろうねという声掛けをしましょう。

(例2:公民館等での「ふれあい遊び」)

## 「あそびのひろば」報告シート

日時	令和〇年〇〇月〇〇日(〇) 10:30 ~ 11:00 (所要時間 30分)
会場	〇〇公民館
行事名	あそびのひろば「親子のふれあい遊び」
参加者	8組(子供8名、保護者8名)
ねらい	○親子で一緒に身体を使ったコミュニケーションや諸感覚を使った身体遊びの楽しさを味わいながら、保護者が「遊びは学び」を体験的に理解する。 ○保護者に、「遊びへの大人の関わり方」について共感的理解を促し、実践につなげる。 ○諸感覚を使った身体遊びの楽しさを体感し、スキンシップを通して子供に安心感をもたせ、愛着関係を育む。
準備物	別紙「準備物一覧」のとおり。
連携先	〇〇子育てサークル、〇〇市こども家庭課
広報	市の広報誌、ホームページ
支援者	「あそびのひろば」ファシリテーター(名前) 〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇

時間	プログラムの流れ	実施中の様子
10:30 (5分)	<導入> ○挨拶・「あそびのひろば」趣旨・流れ等説明 ○自己紹介	
10:35 (20分)	<ふれあい遊び> ○どんぐりころころ(4分) ○森のくまさん(4分) ○ぶんぶんぶん(4分) ○ねこふんじゃった(4分) ○ぞうさん(4分)  ※詳細は別紙プログラムを参照	○皆と同じように動くにはまだ小さく難しい子が参加していたが、歌に合わせて自分なりに身体を動かしながら楽しんでいる様子であった。親も優しく見守りながら楽しんでいた。 ○おとなしく恥ずかしそうにしている保護者がおられたが、声掛けしたり、プログラムを進めていく中で、保護者も活発になり、それに併せて子どもさらに思い切って楽しんでいる様子であった。 ○プログラムの最後は親が子供を抱きしめて終了したが、親も子どもとても幸せそうな表情であった。
10:55 (5分)	<振り返り>	
11:00	<終了>	○次回の案内

参加者の声、感想など ○子供との距離感がさらに縮まった気がして、嬉しかった。日頃から意識してスキンシップを取ろうと思った。 ○子供がこんな動きができるとは知らなかったため、成長を感じた。自分の気分転換にもなったので、こういったイベントがあればまた参加したい。 ○まだ小さいので皆についていけるか心配だったが、優しく声をかけてくださったおかげで子供も一生懸命頑張っていて楽しんでいた。関わり方が参考になった。
今回の実施に際して工夫した点、気づき、ファシリテーターの感想など ○口頭での「あそびのひろば」趣旨説明とともに、リーフレットや、「大人への遊びの関わり方」ヒント、「遊びは学び」・「5つの力」についての説明資料を手交していたため、保護者への理解が深まっているようであった。 ○全てやるにはまだ難しいくらい小さい子がいたため、周りの子との安全面に配慮しながら、「すごい、上手!お兄ちゃんだね。」 「無理せずお休みしながらやろうね」などの声掛けを行った。 ○ボランティア団体による進行に加え、市職員の方が、受付や活動中も安全面に気を付けながらサポートいただいたことで、参加者が集中して楽しむことができた。

「あそびのひろば」実践後には、報告シートの提出(活動中の写真等を含む)にご協力ください。事例を収集し、県HPやSNSでの周知・広報等を行います。

広島県教育委員会 乳幼児教育支援センター 電子メール: kyoyoujic@pref.hiroshima.lg.jp

## 「あそびのひろば」企画シート

日時	令和〇年〇〇月〇〇日(〇) 10:30 ~ 11:00 (所要時間 30分)
会場	〇〇市子育て世代包括支援センター
行事名	みんなあつまれ「あそびのひろば」
対象	乳幼児期の親子(約10組)
ねらい	○親子で一緒に遊びを楽しみながら、保護者が「遊びを通じて子供が学んでいること」を体験的に理解する。 ○保護者に、「遊びへの大人の関わり方」について共感的理解を促し、実践につなげる。 ○子供が、試行錯誤しながら挑戦し、目標を達成することにより、考える力、やりぬく力や自己肯定感等を育む。
準備物	別紙「準備物一覧」のとおり。
連携先	〇〇市こども家庭課、〇〇市教育員会生涯学習課
広報	市の広報誌、ホームページ
支援者	「あそびのひろば」ファシリテーター (名前) 〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇

時間	プログラムの流れ	留意点
10:00 (30分)	<受付>	○リーフレット幼児シリーズ⑧遊びへの大人の関わり編、「遊びへの大人の関わり方」のヒント・「遊びは学び」「5つの力」の説明)と、アンケートを手交し、終了後、アンケートを提出してもらうよう伝える。 ○写真を撮る場合は、予め了解を取る。(肖像権)
10:30 (5分)	<導入> ○「あそびのひろば」趣旨・流れ等説明	○和やかな雰囲気づくりに配慮する。 ○できない場合や、やりたくない場合には、子供のペースに応じて無理に工作を完成させなくても、見本で遊ぶだけでもよいことを伝えると不安なくスタートできる。
10:35 (20分)	<製作遊び> ○ペットボトルキャップを使って、カスタネットを作ろう! ※詳細は別紙を参照	○材料、道具などは机の上に置いておき、子供に自由に選択してもらう。 ○見本を置いておくが、見本通りに作らなくてもよい、自由に作ってもらうことを伝える。 ○小さい子供で道具を使うことが難しい場合などは、シール貼りや、マジックで絵をかくのは子供など、大人と子供で役割分担する。 ○作り方が分からないので教えてほしいなどの要望があれば支援をするが、基本的には子供と保護者で自由に作ってもらい、ほめ言葉など、親子への声かけを適宜入れながら進める。 ○子供が集中している時には、質問は控え目にして、 「子供の行動を(具体的に)褒める」 「子供の言葉を繰り返したり、言い換えたりする」 「子供の行動を言葉にする」などを意識した声掛けをする。 ≪声かけの例≫ ・子供の行動を(具体的に)褒める 「ここに折り紙を貼ってみたんだね、工夫していてすごいね。」 「〇〇貸してあげて、えらかったね。」 「マジック元のところに戻してくれて、ありがとう。」 ・子供の言葉を繰り返したり、言い換えたりする 「(子供) スイカを描いたよ。」「(大人) スイカを描いたのね。」 「(子供) カエルさん、ケロケロ。」「(大人) カエルさん、ケロケロって鳴くね。」 ・子供の行動を言葉にする 「お魚を作っているんだね。」「シールで模様を作っています。」 「りんごとぶどうと桃、果物の絵を描いています。」 ・遊びを一緒に楽しむ。 「歌いながら、カチカチ、音を出しても楽しそうだね。」 「野球の応援にも使えるかな。」
10:55 (5分)	<振り返り>	○活動中の子供の様子や、言葉を紹介する。 ○アンケートへの協力依頼。
11:00	<終了>	

○啓発用品の借用希望 (あり・なし)  
⇒希望の物品の番号を記入してください。

--	--	--	--	--	--

○啓発資料の送付希望 (あり・なし)  
⇒希望の資料の番号と部数を記入してください。

③					
20枚					



## (1)「あそびのひろば」趣旨

皆さんこんにちは。(お手元にありますリーフレットにも記載しておりますが、)「遊びは学び」、どこかで聞いたこと、見たことがありますでしょうか。

ご承知のとおり、乳幼児の生活のほとんどは、「遊び」によって占められており、「遊び」の中で、色々なことに気付いたり、考えたり、工夫したり、友達、きょうだい、大人と関わりながら、たくさんの事を学んでいます。

県では、「遊び」はまさに探究の宝庫で、「遊びを通して様々なことを学んでいる」ということを「遊びは学び」として、保護者の皆様をはじめ、多くの方に対し、お伝えしているところでございます。

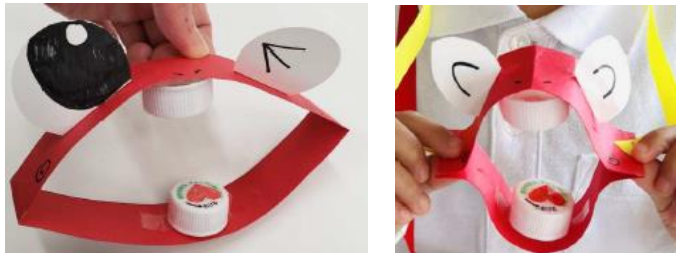
子供は自分一人でも遊びますが、大人と一緒に話したり、遊ぶことで、発見が促され、一人で遊ぶよりたくさんの方の事を学びます。また、新しいことを学ぶ力も、大人との遊びで育まれます。

例えば、大人はついつい「こうするのがいいよ」「それはできないよ」と言いたくなってしまうのですが、子供の姿を見守ってみると、自分のアイデアを実現するために、必要な物や情報などを集めたり、実現するための方法を考えて、色々試している姿が見られるかもしれません。

この「あそびのひろば」を通じて、そうしたことを少しでも感じていただければと思います。それでは、最後までゆっくり、お楽しみください。

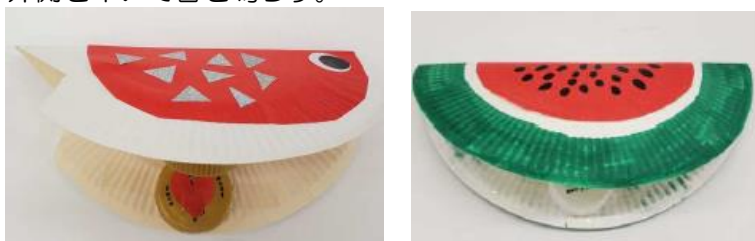
### 例：画用紙を使ったカスタネット

- <作り方>
- ・赤い画用紙（縦3cm 横18cm に切ったもの）を2つ用意する。
  - ・画用紙の外側に折り紙やシールなどを使って、目や模様などを付ける。
  - ・画用紙の内側の中央にペットボトルキャップをセロテープで付ける。
  - ・ペットボトルキャップが向かい合うように重ね合わせ画用紙の端を、セロテープでとめる。
- <遊び方>
- ・両端を持って、押し引きして音を鳴らす。



### 例：紙皿を使ったカスタネット

- <作り方>
- ・紙皿を真ん中2つ折りにして、折り紙やシール、マスキングテープなどを使って模様を付ける。
  - ・紙皿の内側に、ペットボトルキャップが向かい合うようにセロテープで付ける。
- <遊び方>
- ・外側を叩いて音を鳴らす。



## 「あそびのひろば」報告シート

日時	令和〇年〇〇月〇〇日(〇) 10:30 ~ 11:00 (所要時間 30分)
会場	〇〇市子育て世代包括支援センター(ネウボラ)
行事名	みんなあつまれ「あそびのひろば」
対象	子供15名、保護者14名(内訳:母10名、父2名、祖父母等2名)※10組
ねらい	○親子で一緒に遊びを楽しみながら、「遊びは学び」を体験的に理解する。 ○子供が、試行錯誤しながら挑戦し、目標を達成することにより、考える力、やりぬく力や自己肯定感等を育む。
準備物	別紙「準備物一覧」のとおり。
連携先	〇〇市こども家庭課、〇〇市教育員会生涯学習課
広報	市の広報誌、ホームページ
支援者	「あそびのひろば」ファシリテーター(名前) 〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇

時間	プログラムの流れ	実施中の様子
10:00 (30分)	<受付>	
10:30 (5分)	<導入> ○挨拶・「あそびのひろば」趣旨・流れ等説明	
10:35 (20分)	<製作遊び> ○ペットボトルキャップを使って、カスタネットを作ろう!	○見本のまま作る子供はほとんどおらず、マジック、シール、マスキングテープ、折り紙、リボンを使って、オリジナリティを出していた。カエルを作る画用紙タイプより、自由に飾り付けを行う紙皿タイプの方が時間がかかっていたようであった。 ○絵を描くことが難しい小さな子供も、シールやマスキングテープを貼ることを楽しんでいた。 ○1組は、机に移動した時点で子供が泣き出し、工作も嫌がったため、見本を使って、音を出したり、歌を歌ったりして過ごした。 ○保護者が、まだ道具を使うのが困難なような子供であっても、最初から大人がするのはなく、「はさみで切ってみる?」など子供に問いかけていたり、困難な場合であっても、子供が「自分でする」と言った場合は、「線を描いた方が切りやすいから書こうか」と作業がしやすいような工夫をしてあげたり、手を添えて一緒に活動していたり、子供のやりたい気持ちを大切にしている様子が多く見られた。
10:55 (5分)	<振り返り>	
11:00	<終了>	

参加者の声、感想など ○家にある身近なもので作ることができてよかった。 ○下(次男)の子の世話に手がかかり、普段は、上の子(長男)になかなか手をかけてあげられないのだが、今日は、上の子がファシリテーターにたくさんほめてもらってすごく喜んでいる姿を見て、私も嬉しくなった。 ○子供がファシリテーターと会話しているのを聞いて、いつの間に家族以外の人ももしっかりと話ができるようになったのかと驚いた。 ○来年度、小学校に入学する子がおり、もっと読み書きや計算をさせた方がよいのかと不安に思っていたが、遊びから色々学んでいるということを知って安心した。
今回の実施に際して工夫した点、気づき、ファシリテーターの感想など ○口頭での「あそびのひろば」趣旨説明とともに、リーフレットや、「大人への遊びの関わり方」のヒント、「遊びは学び」・「5つの力」についての説明資料を手交していたため、保護者への理解が深まっているようであった。 ○子供の製作を見守りながら、保護者が、子供の好きなこと、普段の様子、ちょっとした不安を話始められる方も何名かおられた。保護者にとって、子供や自分のことについて気軽に話ができる場にもなっていると感じた。 ○保護者の中には、子供をファシリテーターや母親に任せて、自分が製作に夢中になっている方もおられたため、子供に「お父さんにこっ持ってもらう?」とか「お父さんに見せてみて」などと、関わりをもってもらおうような声掛けを行った。

# 子供にとって

# 遊びや日々の生活の全てが 学びです

「遊び」や「生活」は子供にとって探究の宝庫。

遊びや日々の生活の中で、発見すること（感じる・気付く力）、体を動かすこと（うごく力）、創造すること（考える力）、困難を乗り越えること（やりぬく力）、人と関わること（人とかかわる力）などを繰り返し経験することで、生涯にわたって主体的に学び続けることにつながります。



子供のもっている力をさらに伸ばし引き出していくためには、子供の周りにいる大人が、その子の個性を大切にし、発達に合わせて「5つの力」を育てていくことが大切だと考えています。

ちょっとしたヒントを  
ご紹介!!

# 遊びへの大人の関わり方

～大人の関わりはサポート型で～

## 遊びを一緒に楽しんでいますか？

- 親子で同じ楽しさを共有することは、親子の信頼関係を深めるとともに、子供の自己肯定感を育みます。楽しそうに見守っている大人がそばにいて、子供は安心して遊びに集中することができます。子供の遊びを見守る中で、「楽しいね。」「すごいね。」などと声を掛けるのもいいですね。

## 子供の「ありのまま」を受け止めていますか？

- 子供はありのままの自分を温かく受け止めてくれる大人がいることで、このままで自分はいいのだという安心感、そして自信につながります。  
子供のがんばっている姿をほめ、小さな成功体験を大切にしましょう。
- 大人は、大人の願い（勉強ができてほしい等）を押しつけてしまいがちですが、その押しつけは子供の新たな気づきや学び、探索の機会を奪ってしまうこともあります。

## 好奇心の芽生えをやさしくサポートしていますか？

- 自分がやってみると何かが反応するという体験は「なぜ?」「もっとやってみよう!」という好奇心の原動力になります。子供が自分で考えて行動し、うまくいかなかったときも、すぐに批判したり、解決策を示したりするのではなく「大きさを変えてみたらどうかな?」など想像が膨らむ答えを返したり、一緒に考えたりするのはどうでしょうか。
- 子供の「見て!見て!」という言葉には「なぜ?なぜ?」という、その子なりに考えた思いが込められていることがあります。「なぜだろう?」と考えている時間も大切にしたいですね。

## 他の子と比べていませんか？

- 子供の個性やタイプはさまざまです。大人は形をみることに慣れているので、つい、出来不出来などが気になってしまいますが、うまくいなくても、子供自身が工夫したり、試してみたりして、自分なりに「やればできる」という達成感や「できた!」という喜びにつながる事が大切です。



広島県教育委員会乳幼児教育支援センター



子育て情報  
発信中!



## Q & A あそびのひろばの企画・実施にあたり、よくある質問を紹介します。

### 質問 1 活動内容に決まりはあるのでしょうか？

乳幼児の親子を対象とした活動であれば、なんでも結構です。参加者の親子に楽しんでいただきながら、「あそびのひろば」の趣旨である「遊びを通じて子供が学んでいること」、そのために「遊びへの大人の関わり方」が大切であることを保護者に伝える、という視点を活動に取り入れてください。

### 質問 2 イベント名に「あそびのひろば」を入れないといけないのでしょうか？

必ずしも、イベント名に「あそびのひろば」を入れる必要はありません。質問1のとおり、それぞれの活動の場を活かして、あそびのひろばの趣旨を保護者に伝えるという視点をもった活動であれば、イベント名はなんでも結構です。

### 質問 3 企画シート・報告シートは、開催したら毎回提出しないといけませんか？

研修受講者には、各地域での「あそびのひろば」の開催（実践）をもって、県から「あそびのひろばファシリテーター修了証」を交付しますので、受講後の1回目は、実践前に企画シート、実践後に報告シートをご提出ください。

その後の開催に係る各シートの提出は必須ではありませんが、県では、本事業の更なる充実に向けて、各市町での活動状況を把握するとともに新しい事例を皆さんと共有させていただきたいと考えていますので、提出への御協力をお願いします。

### 質問 4 研修受講後の「あそびのひろば」の実践は開催期限はありますか？また、開催時間(何分以上)等の決まりはありますか？

実施者や市町の状況に応じて実施できるよう、いつまでという期限は設けていません。また、内容や場所に応じた時間としていただくため、何分間以上、何時間まで、といった決まりもありません。

### 質問 5 啓発資料は、各市町で加工・編集して配付してもいいのでしょうか？

保護者手交用資料「遊びへの大人の関わり方」のヒントは、各地域で伝えたい内容もあるかと思しますので、加工・編集してご使用いただいても問題ありません。また、「5つの力」の説明も、力の内容を変えなければ、説明の言葉を簡単にしたり、セリフやイラストを変えることは問題ありません。編集が可能な電子データを提供しますので、ご連絡ください。その他、資料集でご紹介しています各種啓発資料は、内容の改編はできませんが、ご自由にお使いください。

---

## 第4章 「あそびのひろば」実践事例

---

広島県内で開催された「あそびのひろば」の実践事例の企画シート及び報告シートを次ページから一部紹介しています。

また、ここで紹介した以外の様子は、広島県教育委員会あそびのひろばホームページで紹介していますのでファシリテーターの企画・運営の参考にしてください。県では引き続き、実践事例の収集をしていますので、企画シート及び報告シートの提供に御協力ください。

### 〔実践事例〕

- あそびのひろば「おはなし会・絵本とおあそび会」（庄原市）  
令和5年2月11日（土）庄原市田園文化センター
  
- あそびのひろば in LECT（広島市）  
令和5年7月29日（土）LECT
  
- あそびのひろば「水であそぶおもちゃを作ってあそぼう！」（東広島市）  
令和5年8月23日（火）広島大学附属幼稚園

## 「親プロ」「あそびのひろば」企画シート

日時	令和5年2月11日(土) 13:30~15:00(所要時間:1時間30分) 予定
会場	庄原市田園文化センター
行事名	おはなし会・絵本とおあそび会
対象	0~3歳児の親子
ねらい	○親子で一緒に絵本を楽しみながら、「遊びは学び」を体験的に理解する。 ○絵本や歌を通じて、あそびの楽しさを味わう。 ○子供とスキンシップをとり、子供のことばや考える力を育む。
準備物	絵本・CD・ホワイトボード・マーカー・鉛筆・マグネット・ワークシート・アンケート用紙・3つの約束
連携先	庄原市教育委員会生涯学習課
広報	掲載予定
支援者	「親プロ」ファシリテーター(〇〇〇〇) 「あそびのひろば」ファシリテーター(〇〇〇〇・〇〇〇〇)

時間	プログラムの流れ	留意点
13:30 (5分)	<b>おはなし会&lt;導入&gt;</b> ●挨拶・趣旨・流れ等説明 ●自己紹介	○和やかな雰囲気づくりに配慮する。 ○必要に応じて、参加者同士での自己紹介を促す。 ○写真を撮る場合は、予め了解を取る。(肖像権) ☆できない場合ややりたくない場合には、子供のペースに応じて無理に参加しなくてもいいことを伝えると不安なくスタートできる。
13:35 (25分)	●節分(おに)に関する図書のおはなし会	おはなし会サークル(4~5名程度)が各自絵本を用意 ○一人ひとりがよく見えるように空間づくり ○子供が絵本に集中できる環境づくり
14:00 (15分)	●市内児童合唱団による合唱(予定)	季節(2月)に関する歌の披露 ※児童合唱団と調整中。参加できない場合は、14:15までおはなし会を続ける。
14:15 (5分)	<b>親プロ&lt;導入&gt;</b> ~おひざにだっこでおはなししましょう~ ●ファシリテーター(学習支援者) 自己紹介、主旨・ルールなど説明	○和やかな雰囲気づくりに配慮する。 ○三つの約束(発言の平等、人の発言を肯定、秘密の保守)、ただし、言いたくないことは話さなくても良い。(パス有り)
14:20 (15分)	●タイトル、ねらいを読む。 ●赤ちゃんと絵本の出会いを紹介する。 <やってみましょう> ●親子でファシリテーターの読みきかせを聞く。 ●子供へ絵本の読み聞かせをしてみる。(可能なら) (10分) ●感想を交流し合う。 (5分) <赤ちゃんが大好きな絵本の紹介> ●絵本を紹介する。 <参考資料等の紹介> ●必要に応じて参考資料等を紹介する。	○絵本の読み聞かせ体験の導入として、「こんなことがあります。一緒にやってみましょう」と声をかける。 ○おひざにだっこして絵本の読み聞かせを親子一緒に楽しむ。 ※我が子や周りの子供の表情や様子を見守るよう伝える。 (子供のまなざしやしぐさに関心を示すことが成長につながる。) ※(絵本の読み方が上手になることが目的ではなく、)読み聞かせが初めからうまくいかないのと同じように子育ては思い通りにいかないことの連続であり、結局は子供を主人公に親は見守っていく存在であるということ伝える。 ▲一冊の本を声に出して回し読みをする。 ※リーフレット等を準備、配布し、紹介 ○赤ちゃんとふれあいを感じる方法としてうたをきかせることも効果的であることを紹介する。 ○図書館等、絵本と出会える場所を紹介する。 ○講座の目的や参加者の様子に合わせて必要な個所を読んでいく。
14:35 (10分)	<学習を振り返りましょう> ●ワークシートに記入する。 ●ファシリテーターの話	※参加者一人一人に感想を聞いてみる。 ※絵本の読み聞かせは、義務的に、仕方なしにやるものではなく、親子で絵本を通じて一緒に遊んだり、リラックスする過ごし方の一つとして行ってほしいことを伝える。
14:45 (3分)	<b>あそびのひろば&lt;導入&gt;</b> ●挨拶・趣旨・流れ等説明 ●自己紹介	○和やかな雰囲気づくりに配慮する。 ○必要に応じて、参加者同士での自己紹介を促す。 ☆できない場合ややりたくない場合には、子供のペースに応じて無理に参加しなくてもいいことを伝えると不安なくスタートできる。
14:48 (10分)	●絵本の読み聞かせとふれあい遊び ●童謡遊び ●わらべ歌メドレー (候補3プログラム)	○成長段階に応じて、出来るところまで行う。 ○向かい合っの体操は、目と目を合わせてコミュニケーションを更に深める。 ○それぞれの遊びの後に親が子供を一度抱きしめて、親子の触れ合いを深める。 ※あそびのひろばの前にはおはなし会、親プロ講座があるため、子供の集中力を考慮し、1つのプログラムを短時間で行う予定。子供の反応を見ながら時間を調整。
14:58 (2分)	<振り返り> ●アンケート記入	○活動中の子供の様子を思い出し、振り返り、共有する。 ☆話したくない人は無理に話さなくてもいいことを伝える。
15:00	<終了>	

○啓発用物品の借用希望 (あり・なし)  なし

⇒希望の物品の番号を記入してください。

--	--	--	--	--	--

○啓発資料の送付希望 (あり・なし)  なし

⇒希望の資料の番号と部数を記入してください。

--	--	--	--	--	--

## 「親プロ」「あそびのひろば」報告シート

日時	令和 5 年 2 月 11 日(土) 13:30 ~15:00(所要時間:1時間 30分)
会場	庄原市田園文化センター
行事名	おはなし会・絵本とおあそび会
参加者数	子供約 20 名、保護者約 40 名
ねらい	○親子で一緒に遊びを楽しみながら、「遊びは学び」を体験的に理解する。 ○絵本や歌を通じて、あそびの楽しさを味わう。 ○子供とスキンシップをとり、子供のことばや考える力を育む。
準備物	絵本・ホワイトボード・マーカー・鉛筆・マグネット・ワークシート・アンケート用紙・3つの約束・葉っぱ
連携先	庄原市教育委員会生涯学習課
広報	掲載予定
支援者	「親プロ」ファシリテーター(〇〇〇〇) 「あそびのひろば」ファシリテーター(〇〇〇〇・〇〇〇〇)

時間	プログラムの流れ	実施中の様子
13:30 ( 5 分)	<b>おはなし会&lt;導入&gt;20 組</b> ●挨拶・趣旨・流れ等説明 ●自己紹介	○想定以上の参加だったため、参加者用の椅子を迅速に用意し、対応した。 ○おはなし会を始める前に、親プロ・あそびのひろば講座を周知し、参加を促した。 ○乳幼児の子供用にマットを設置し、保護者が子供と座って話しやすい場を設けた。
13:35 ( 25 分)	●節分(おに)に関する図書のおはなし会	○絵本の紹介(5冊) ★「おにのパンツそのあとは・・・」、★「だんごころころ」、★「のりまき」 ★「おによりつよいおよめさん」、★「おふくさん」 ○普段の読み手と違うことで、子供たちは絵本の刺激や・新鮮さをより感じながら集中していた。 ○保護者の方も、普段見せない子供のいろいろな表情を楽しんでいる様子だった。
14:00 ( 15 分)	●市内児童合唱団による合唱	○歌の披露(2曲) ★「おにのパンツ」 ★「たき火」 ○身振り手振り、会場が一体となっていた。
14:15 ( 5 分)	<b>親プロ&lt;導入&gt;2 組</b> ～おひざにだっこでおはなししましょう～ ●ファシリテーター(学習支援者) 自己紹介、主旨・ルールなど説明	○乳幼児の子供をもつ親子だったため、マットの上に絵本を広げて、子供たちが見えやすいようにセッティング。
14:20 ( 15 分)	●タイトル、ねらいを読む。 ●赤ちゃんと絵本の出会いを紹介する。 <b>&lt;やってみましょう&gt;</b> ●親子でファシリテーターの読みきかせを聞く。 ●子供へ絵本の読み聞かせをしてみる。(可能なら)(10分) ●感想を交流し合う。(5分) <b>&lt;赤ちゃんが大好きな絵本の紹介&gt;</b> ●絵本を紹介する。	○ファシリテーター読み聞かせ(2冊) ★「あなたがとってもかわいい」 ★「おひさまあはは」 ○子供たちが興味を持つように、声のメリハリ・強弱を意識し、用意した絵本の中でも、大きい絵本を使うことで、子供たちも興味を示していた。 ○子供・保護者の目線に合わせて、読み聞かせができた。 ○読み聞かせに対し、ほかのファシリテーターで効果音や動きをつけることで、より子供たちの反応がよくなっていた。
14:35 ( 10 分)	<b>&lt;学習を振り返りましょう&gt;</b> ●ワークシートに記入する。 ●ファシリテーターの話 ●アンケート記入	○アンケート記入中、マットを離れていく子供たちに、お母さんと協力してファシリテーターが、マットへ誘導する動きも連携がとれていた。
14:45 ( 3 分)	<b>あそびのひろば&lt;導入&gt;2 組</b> ●挨拶・趣旨・流れ等説明 ●自己紹介	○絵本の読み聞かせが1時間以上続き、子供たちの集中力が切れてきている様子だったため、当初予定していた「絵本とふれあい遊び」から、はっぱ遊びに変更。
14:48 ( 10 分)	●はっぱ遊び	○大きさがばらばらのラミネートされた葉っぱを使い、仲間や違いをファシリテーターと探したりして、子供たちは興味を示しながら楽しんでいる様子だった。
14:58 ( 2 分)	<b>&lt;振り返り&gt;</b>	○あそびのひろばの概要や、今後の活動内容について説明。
15:00	<b>&lt;終了&gt;</b>	

### 参加者の声、感想など

- ・子供と絵本を通じて触れ合うことの大切さを改めて実感した。子育てするうえで安心感が高まった。
- ・今後も「親プロ」や「あそびのひろば」など、子育てに関する講座があれば参加したい。

### 今回の実施に際して工夫した点、気づき、ファシリテーターの感想など

- ・保護者の方が、子供を見ながらアンケートを記入するのが難しそうだった。乳幼児の子供をもつ親子が対象の場合、もう少し簡易的なアンケートにする必要がある。
- ・子供が乳幼児の場合、マットへ置く絵本は数本程度にして、動いても歩きやすい環境を整えておく。
- ・常に子供・保護者の反応を見ながら、プログラムの変更等、臨機応変に対応する必要がある。
- ・今回はたまたま子供たちの年齢が近く、興味を持つ絵本も同じだったが、参加人数が増え対象年齢が幅広くなった場合のグループ分けや、絵本の選び方は今後開催する際、気を付けたいといけな。
- ・今回ののはっぱ遊びは屋内で少人数だったため、一人ひとりついでにみる事ができたが、今後屋外での活動も検討する場合、場所の下調べ及び準備を入念に行い、安全に取り組む必要がある。



## 「あそびのひろば」企画シート

日時	令和5年7月29日(土) 11:00~16:00
会場	LECT 1階イベントスペース(広島市西区扇二丁目1番45号)
行事名	あそびのひろば in LECT
対象	未就学児(2歳以上)と保護者及び同伴者
ねらい	○親子で一緒に遊びや会話を楽しみながら、「『遊び』は『学び』」を体験的に理解する。 ○様々な作品を作ることを通して、豊かな想像力や表現力を育む。 ○試行錯誤しながら挑戦し、目標を達成することにより、やりぬく力や自己肯定感を育む。
連携先	株式会社イズミ(LECT) [県との包括的連携協定締結企業]
広報	乳幼児教育支援センターで、事前に、県教委HP、県及び県教委SNS、母子モを活用した広報を行い(詳細は別紙「広報計画」のとおり。)、実施後は、県教委HP及び母子モ等で当日の様子を紹介する。
支援者	ファシリテーターは県教育委員会乳幼児教育支援センター職員が担う。 (名前)○○○○、○○○○
その他	事前申込は行わない。

時間	プログラムの流れ	留意点
随時	<p>受付(①長机)で手交用資料(遊びへの大人の関わり方・「5つの力」の説明)を渡し、(1)の参加者には、②長机上の材料(紙コップ又は紙皿)を1名につき一つ選ぶように伝え、(2)のみの参加者には、バナー用啓発資料を手交。最後に出口でアンケートにお答えいただきたいことをお伝えする。</p> <p><b>①海にいる生き物(魚他)の紙工作及び魚釣り</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●事前申し込みは不要としているため、随時参加してもらう。</li> <li>●材料(紙コップ又は紙皿)を②長机に置いておく。</li> <li>●参加者は各机でマジック、シールやマスキングテープ等を使って魚の模様をつけ、魚を作る(同時に4組まで)。 ※材料、道具等は机上に置いておく。</li> <li>●魚ができたら、リボン(又はラッピングワイヤー)をテープで貼り付ける又はホッチキスで留めて完成。</li> <li>●制作した魚を、ブルーシートの上に置き、先にS字フックのついた竿を使って、釣りを楽しむ。 (釣り竿は割り箸や新聞紙、S字フックも大小様々用意し、参加者は自由に選びながら行う。)</li> </ul> <p><b>②バナーを使って親子で会話を楽しむ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●③長机に、バナー用啓発資料4種を置いておき、バナーに近づいた者(大人)に職員が資料を渡す。</li> <li>●設置されたバナー4台と、各バナーを説明した啓発資料を使って、記載された問いかけ等を参考に、親子の会話を自由に楽しんでもらう。</li> </ul> <p>参加者の導線上は(1)→(2)だが、混み具合により(2)を誘導する。</p>	<p>○工作が終了した者が魚釣りへと移動するが、竿の危険な使い方がないよう監視する。</p> <p>○工作が難しい小さい子や絵を描くのが苦手な子は、シール貼りだけやブルーシートの魚で遊ぶだけでもよい(無理強いはいしない)。</p> <p>○何か困っている家族がいれば、声を掛け適宜サポートする。</p> <p>声掛け例:「テープで貼るの(ホッチキスで留めるの)自分でやってみる?難しかったらお母さん(お父さん)に手伝ってもらおう?」「竿は長いのも短いのも、固いのも柔らかいものがあるから色々試してみてね」</p> <p>○出口から入ってきた場合は、受付を案内する。</p> <p>○バナーを眺めているだけの親子がいれば、親子の会話を促す。</p> <p>声掛け例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○まるいものをさがそう 「まるいものって何がある?」</li> <li>○おなじいろをさがそう 「好きな色ある?何色か教えて」</li> <li>○にている?ちがう? 「この中に好きな食べ物ある?どうやって食べるのが好き?」</li> <li>○おおきい?ちいさい? 「大きい順に並べるとどうなるかな?」</li> </ul>
終了時	<p><b>③アンケートの実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●最後に、保護者に、「遊びは学び」の理解度について、アンケートに回答してもらい、リーフレットセットをお渡しする(長机④)。 アンケートは保護者の手を取らないよう、大型のアンケート用紙を掲示し、「遊びは学び」の理解度を4段階に分け、該当箇所にシールを貼って回答してもらう。</li> </ul>	

## (1) 海にいる生き物（魚他）の紙工作及び魚釣り

**魚の紙工作** 作り方に決まりはないので、参加者が自由に作成する。

できたら、S字フックを引っかけるためのリボン（又はラッピングワイヤー）をテープやホチキスで付ける。

<材料> 紙コップ、紙皿、折り紙、シール、ビニールテープ、マジック、マスキングテープ、ラッピングワイヤー、リボン

<道具> のり、ハサミ、ホチキス、セロテープ、両面テープ



**魚釣り** ブルーシートに作った魚を置く。準備した釣り竿から好きな竿を選び、釣りを楽しむ。

<道具> 釣り竿、ブルーシート(5.4m×1.8m、1.6m×1.6m)



## (2) バナーを使って親子で会話を楽しむ

会場にバナー4台を設置し、各バナーを説明した啓発資料を使って、記載された問いかけ等を参考に、親子の会話を自由に楽しんでもらう。

①

②

③

④



1	2	3	4
まるいものをさがそう(会題)	おなじいものをさがそう(会題)	にているものがう？(会題)	おおきいやちいさい？(会題)
AS	AS	AS	AS

## (3) 保護者にアンケートの実施

最後に保護者に「遊びは学び」の理解度について、アンケート調査を行う。アンケートは保護者の手を取らないよう、大型のアンケート用紙を掲示し、「遊びは学び」の理解度を4段階に分け、該当箇所にシールを張ってもらう。

理解できた	やや理解できた	あまり理解できなかった	全く理解できなかった
● ●	●	●	

## 「あそびのひろば」報告シート

日時	令和5年7月 29 日(土) 11:00~16:00
会場	LECT 1 階イベントスペース(広島市西区扇二丁目 1 番 45 号)
行事名	あそびのひろば in LECT
参加者	51 組およそ 150 名 ※一組 3 人でカウント
ねらい	○親子で一緒に遊びや会話を楽しみながら、「『遊び』は『学び』」を体験的に理解する。 ○様々な作品を作ることを通して、豊かな想像力や表現力を育む。 ○試行錯誤しながら挑戦し、目標を達成することにより、やりぬく力や自己肯定感を育む。
連携先	株式会社イズミ(LECT) [県との包括的連携協定締結企業]
広報	・乳幼児教育支援センターで、事前に、県教委 HP、県及び県教委 SNS、母子モを活用した広報を行い、実施後は、県教委 HP 及び母子モ等で当日の様子を紹介する。 ・当日は、LECTが用意したデジタルサイネージで広報した。
支援者	ファシリテーターは県教育委員会乳幼児教育支援センター職員が担当。 (名前)○○○○、○○○○
その他	事前申込は行わない。

時間	プログラムの流れ	留意点
随時	<p>受付(①長机)で手交用資料(遊びへの大人の関わり方・「5つの力」の説明)を渡し、(1)の参加者には、②長机上の材料(紙コップ又は紙皿)を1名につき一つ選ぶように伝え、(2)のみの参加者には、バナー用啓発資料を手交。最後に出口でアンケートにお答えいただきたいことをお伝えする。</p> <p><b>(1) 海にいる生き物(魚他)の紙工作及び魚釣り</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●事前申し込みは不要としているため、随時参加してもらう。</li> <li>●材料(紙コップ又は紙皿)を②長机に置いておく。</li> <li>●参加者は各机でマジック、シールやマスキングテープ等を使って魚の模様をつけ、魚を作る(同時に4組まで)。 ※材料、道具等は机上に置いておく。</li> <li>●魚ができたら、リボン(又はラッピングワイヤー)をテープで貼り付ける又はホッチキスで留めて完成。</li> <li>●制作した魚を、ブルーシートの上に置き、先にS字フックのついた竿を使って、釣りを楽しむ。 (釣り竿は割り箸や新聞紙、S字フックも大小様々用意し、参加者は自由に選びながら行う。)</li> </ul> <p><b>(2) バナーを使って親子で会話を楽しむ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●③長机に、バナー用啓発資料4種を置いておき、バナーに近づいた者(大人)に職員が資料を渡す。</li> <li>●設置されたバナー4台と、各バナーを説明した啓発資料を使って、記載された問いかけ等を参考に、親子の会話を自由に楽しんでもらう。 参加者の導線上は(1)→(2)だが、混み具合により(2)を誘導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○工作が終了した者が魚釣りへと移動するが、<u>竿の危険な使い方がないよう監視する。</u></li> <li>○工作が難しい小さい子や絵を描くのが苦手な子は、シール貼りだけやブルーシートの魚で遊ぶだけでもよい(無理強いはしない)。</li> <li>○何か困っている家族がいれば、声を掛け適宜サポートする。</li> </ul> <p>声掛け例:「テープで貼るの(ホッチキスで留めるの)自分でやってみる?難しかったらお母さん(お父さん)に手伝ってもらおう?」 「竿は長いのが短いのが、固いのが柔らかいのがあるから色々試してみてね」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○出口から入ってきた場合は、受付を案内する。</li> <li>○バナーを眺めているだけの親子がいれば、親子の会話を促す。</li> </ul> <p>声掛け例 ○まるいものをさがそう 「まるいものって何がある?」 ○おなじいろをさがそう 「好きな色ある?何色か教えて」 ○にている?ちがう? 「この中に好きな食べ物ある?どうやって食べるのが好き?」 ○おおきい?ちいさい? 「大きい順に並べるとどうなるかな?」</p>

**参加者の声、様子など**

・「下(次男)の子の世話に手がかかり、上の子(長男)をなかなか目をかけてあげられず、今日は、上の子が職員(ファシリテーター)にたくさんほめてもらってすごく喜んでます」などの声も聞かれた。

・子供に「これ、かわいいね。」「かっこいいね。」と声をかけたときに、「これはお母さんがつけてくれたの。」「お父さんと一緒に考えたよ。」と嬉しそうに教えてくれる姿がよく見られた。

・子供がファシリテーターと話している様子を見ながら、保護者が「すごい!いつの間に、初対面の人もこんなに会話ができるようになったんだろう。」と普段見ることができない姿を見ることができて嬉しそうであった。

今回の実施に際して工夫した点、気づき、ファシリテーターの感想など

・「あそびのひろば」では初めて、受付で、大型液晶モニターを使って、啓発資料動画をリポート再生で、啓発できた点は良かったと思う。

・子供のいつも見えない姿(折り紙の折り方を聞くだけで理解してた点、シールはりがだんだんうまくなっていた点)などを保護者に伝えることで、「遊びは学び」の具体を伝えることができたと思う。

・これまで、質問を多くすることにより、子供の考えを促したり、会話を引き出すと思っていたが、ペアトレ研修での子供の主体的な遊びについていく時に増やしたい関わり方3P:「具体的にほめる」「繰り返す」「行動をことばにする」を意識して声掛けを行った。質問をされたとき、子供は「どう答えていいのか」ととまどい、動きが止まってしまうこともあったけれど、3P の声掛けを行った方が、会話が進んでいったように思う。恥ずかしくて言葉を返せない子も、微笑んでくれたりして、とまどう様子は見られなかった。

## 「あそびのひろば」企画シート

日時	令和5年8月23日(水)9:30~11:30
会場	広島大学附属幼稚園 遊戯室、園庭(東広島市鏡山北 333-2)
行事名	広島大学附属幼稚園「あそびのひろば」
対象	広島大学附属幼稚園の園児と保護者 20組程度及び園外からの希望者先着 20組(園庭開放) 合計 40組程度
ねらい	○親子で一緒に遊びや会話を楽しみながら、「『遊び』は『学び』」を体験的に理解する。 ○様々な作品を作ることを通して、豊かな想像力や表現力を育む。 ○試行錯誤しながら挑戦し、目標を達成することにより、やりぬく力や自己肯定感を育む。
準備物	別紙「準備物一覧」のとおり
連携先	広島大学附属幼稚園
広報	実施後、県教委 HP で当日の様子を紹介する。※事前広報は協力して行う(県教委HP・SNS、県SNS)。
支援者	(名前)○○○○、○○○○
その他	※申込は、広島大学附属幼稚園が受け付ける。※当日幼稚園側は、計〇名で対応。

時間	プログラムの流れ	留意点
9:30	<p>&lt; 受付開始 &gt; 受付及び手交用資料(3)掲示①、②を配付し、参加者は自由に以下の内容で活動をする。 退園時にアンケート(3)掲示アンケートシート)に答えていただくことを伝え、アンケート後にリーフレットセットを渡す。</p>	開催時間2時間の中で、来られた方を随時受付する。
(120分間)	<p>&lt; 工作 &gt; 遊戯室 (1)シャワー(ペットボトル・牛乳パック) (2)海の生き物(食品トレー、紙皿、牛乳パック等)、釣り竿 &lt; 水遊び &gt; 園庭にたらいやプールを4つ出す ※雨天の場合はひさしの下 or ホールで実施 &lt; パナーを使って親子で会話を楽しむ &gt; 遊戯室にパナー設置。アンケートのお願い</p>	<p>工作で、目打ちを使用する際は、ケガのないように、必ず職員が立ち会う。 【声掛け例】 <b>具体的に褒める</b> (褒める)「ケガしないようにはさみがかえたね、すごいね。」(感謝の気持ちを伝える)「ゴミ、捨ててくれてありがとうね。」(興味・関心を示す)「折り紙を貼ってみたんだね、工夫しているね。」 <b>「遊びを一緒に楽しむ」</b>(行動に気づいていることを知らせる)「マジック、元のところに戻してくれたんだね、ありがとう。」(励ます)「あともう少し、がんばって。」(ほほえむ) Good サインや、OK サインを出しながらでも。(誘ってみる)「では、いよいよ釣り場に行ってみようか。」※状況に応じて、ハイタッチや、肩に手を置くなどのふれあいをしても。 <b>「好奇心の芽生えを優しくサポートする」</b> ・別の紙に「描きたいのはこんな感じ?」と描いて見せ、うなずいたら、「これをなぞってみる?(これを切ってみる?)」と提案する。 ・「何を作るか迷うね。好きなものでいいよ、ゆっくり考えてね。」と優しく声を掛けてみる。 ・物の姿かたちを描かなくてもいいので、「テープやシールもあるからね」と別の方法があることも伝える。 <b>「子供の『ありのまま』を受け入れる」・「他の子と比べない」</b> 子供の作ったものは、子供自身の表現であり「今できていること」に注目する。大人から見た「うまい・へた」の価値基準は捨てて、子供ならではの「今」だけの表現を楽しむ。</p>
11:30	< 終了 >	

### (1) 工作及び水遊び(ペットボトルシャワー、魚釣り)

以下、お手本としていくつかの作品は、会場に置いておくと、基本的には参加者が自由に製作し、自由な遊び方をします。



#### 【ペットボトルシャワー】

- 目打ちでペットボトルに穴を開ける。②マジックで好きな絵を描いて、できあがり。  
※牛乳パックを使う時も作り方は同様に



#### 【大きい魚】

- 牛乳パックを、ヒレとしっぽの形に切って、油性ペンで模様を描く。②発泡トレイに、ヒレとしっぽをテープで貼り付けて、ビニールテープ、シール、マジック等で顔や模様を描く。③ラッピングワイヤーを曲げて、魚の背中に貼り付けて、できあがり。



#### 【小さい魚】

- 牛乳パックを、輪切りにする。②輪切りにした牛乳パックをくるっと裏返し、片方の折り目を真ん中の線に向かって押し込みしっぽの根本を輪ゴムで留める。③油性ペンで目や模様を描いて、ラッピングワイヤーを曲げて、魚の内側に貼り付けて、できあがり。



#### 【ゆらゆらタコ・エイ】

- 紙皿をエイとタコの形に切り取り、油性ペンでそれぞれ色を塗り、目や口を描く。  
②穴あけパンチで1か所ずつ穴をあけ、スズランテープを数本通して結び、手でスズランテープを割いて、フサフサにする。  
③ラッピングワイヤーを曲げて、貼り付けてできあがり。



#### 【釣り竿】

- ストローの先に、ビニール紐をテープで貼り付ける。  
②紐の先に、ラッピングモール等を付けて先を曲げる。

## 「あそびのひろば」報告シート

日時	令和5年8月23日(水)9:30~11:30
会場	広島大学附属幼稚園 遊戯室、園庭(東広島市鏡山北 333-2)
行事名	広島大学附属幼稚園「あそびのひろば」※園庭開放を活用
参加者	広島大学附属幼稚園の園児と保護者 31組及び園外からの希望者 10組 合計 41組 保護者含めて 82人程度
ねらい	○親子で一緒に遊びや会話を楽しみながら、「『遊び』は『学び』」を体験的に理解する。 ○様々な作品を作ることを通して、豊かな想像力や表現力を育む。 ○試行錯誤しながら挑戦し、目標を達成することにより、やりぬく力や自己肯定感を育む。
準備物	別紙「準備物一覧」のとおり
連携先	広島大学附属幼稚園
広報	実施後、県教委 HP で当日の様子を紹介する。※事前広報は協力して行う(県教委HP・SNS、県SNS)。
支援者	(名前)○○○○、○○○○
その他	※申込は、広島大学附属幼稚園が受け付ける。 ※当日幼稚園側は、計〇名で対応。

時間	プログラムの流れ	留意点
9:30	< 受付開始 > 受付及び手交用資料((3)掲示①、②)を配付し、参加者は自由に以下の内容で活動をする。 退園時にアンケート((3)掲示アンケートシート)に答えていただくことを伝え、アンケート後にリーフレットセットを渡す。	開催時間2時間の中で、来られた方を随時受付する。
(120分間)	< 工作 > 遊戯室 (1)シャワー(ペットボトル・牛乳パック) (2)海の生き物(食品トレー、紙皿、牛乳パック等)、釣り竿 < 水遊び >園庭にたらいやプールを4つ出す ※雨天の場合はひさしの下 or ホールで実施 < バナーを使って親子で会話を楽しむ >遊戯室にバナー設置 アンケートのお願い	工作で、目打ちを使用する際は、ケガのないように、必ず職員が立ち会う。
11:30	< 終了 >	

参加者の声、様子など(以下、開催直後の実施者間の振り返りでの内容を含む。)

- ・保護者が側におり見守ることで、子供が安心して、集中力を途絶えさせることなく活動を行っていた。夏休み中の開催であり、在園児の参加者同士も久しぶりの再会で盛り上がり、活動をより一層楽しい場に行っているように感じた。
- ・子供が、ペットボトルの中に、ラッピングワイヤーを細かく切って入れたものを親に見せ、それに対して「キラキラしてステンドグラスみたいだね。」と言って、場所を移動して、陽の光に当ててみるなど、親も一緒に楽しそうに遊んでいる様子が多く見られた。

今回の実施に際して工夫した点、気づき、ファシリテーターの感想など

- ・水場での活動に付き添ったが、保育士に楽しそうに水をかけた子の保護者が申し訳なさそうに謝ってこられた。子の楽しい気持ちを止めないように、水をかけて濡れてもいいことが一目で分かるように水着を着ればよかった。
- ・工作スペースを地べたに座るようにすることで、随時入れ替わりながら好きな場所で好きなように作業することができた。イスを並べていたら、保護者がまず座ったり、場所取りが起こっていた。
- ・受付して遊戯室に入ると、材料・道具・作業場所・水場が一目で分かり、参加者が、これから何をやる、という見通しを持つことができてよかった。
- ・どこにどのような危険があるか(マットが水ですべる、すのこのつなぎ目で足の指を挟む、ピアノに行かないように机で区切る、どの位置からもすぐ手に取れるよう材料を真ん中に配置する等)の危険予測が重要。
- ・今回のような場を通じて、地域と家庭が繋げることができる。子育て支援センターや児童館などの専門家が連携して開催することで、課題を抱える家庭の声を聴き、支援することができる。
- ・実施者の子供の見取りや、援助の仕方が素晴らしいと感じた。いつも子供と接しているかどうかによるのかもしれないが、発達や年齢、姿からの見取りをされていた。
- ・夏休みにあのように園で保護者と子供がつながることができる、園と保護者をつなぐツールとしてとてもよいと感じた。夏季保育や預かり保育をする中で、「保護者と園に来る」という活動に繋がればよいと思うが、働いている方を対象にするのは課題等があると考える。

---

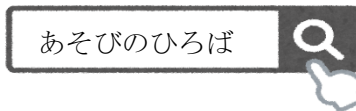
## 資料集

---

- 家庭教育支援啓発用物品一覧
- 家庭教育支援啓発用資料一覧

※広島県教育委員会あそびのひろばのページに、「あそびのひろば実践ハンドブック」の電子データを掲載しています。「家庭教育支援啓発用資料一覧」の各画像をダブルクリックすると、PDFファイルが開きます。ダウンロードしてあそびのひろば参加者へ配付をするなど自由に御活用ください。  
※また、ホームページでは、これらの資料の他に、あそびのひろばプログラム集も紹介していますので、参考にしてください。

広島県教育委員会乳幼児教育支援センター「あそびのひろば」ページ  
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku/asobinohiroba-top.html>







家庭教育支援啓発用物品一覧

番号	1	2	3
名称	バナー① 「まるいものをさがそう」	バナー② 「おなじいろをさがそう」	バナー③ 「おおきい？ちいさい？」
内容	親子で会話を楽しむ	親子で会話を楽しむ	親子で会話を楽しむ
仕様	ポリタンク 1個 支柱 1本 留め具 1個 バナー(W85cm×H130cm) 1枚	ポリタンク 1個 支柱 1本 留め具 1個 バナー(W85cm×H130cm) 1枚	ポリタンク 1個 支柱 1本 留め具 1個 バナー(W85cm×H130cm) 1枚
写真			

番号	4	5	6
名称	バナー④ 「にている？ちがう？」	バナー⑤ 「ねえねえ えほん よんで」	バナー⑥ 「スキンシップがいいらしい」
内容	親子で会話を楽しむ	読み聞かせの大切さを保護者に伝える	スキンシップによる愛着形成の大切さを保護者に伝える
仕様	ポリタンク 1個 支柱 1本 留め具 1個 バナー(W85cm×H130cm) 1枚	ポリタンク 1個 支柱 1本 留め具 1個 バナー(W85cm×H100cm) 1枚	ポリタンク 1個 支柱 1本 留め具 1個 バナー(W85cm×H100cm) 1枚
写真			



番号	7	8	9
名称	バナー⑦ 「あかちゃんへことばのプレゼント」	バナー⑧ 「子供の『遊び』は『学び』そのものです」	絵本セット
内容	読み聞かせや親の言葉かけの大切さを保護者に伝える	遊びを通して子供の様々な力が育まれることを伝える。	読み聞かせの重要性を保護者に伝える際の見本のセット
仕様	ポリタンク 1個 支柱 1本 留め具 1個 バナー(W85cm×H100cm) 1枚	ポリタンク 1個 支柱 1本 留め具 1個 バナー(W85cm×H130cm) 1枚	絵本 計20冊 詳細は別表のとおり
写真			 ※貸付は絵本のみ

番号	10	11	12
名称	バックパネル①	バックパネル②	テーブルクロス
内容	あそびのひろば会場装飾 (注) 県教委名入り	遊びを通して子供の様々な力が育まれることを伝える。	あそびのひろば会場装飾 (注) 県教委名入り
仕様	イーゼーシステムパネル(専用バック付) 1個 ウェイト 2個 ウェイト台 2個 タペストリー 1枚 (W226.5cm×D29.5×H226.5cm)	イーゼーシステムパネル(専用バック付) 1個 ウェイト 2個 ウェイト台 2個 タペストリー 1枚 (W226.5cm×D29.5×H226.5cm)	テーブルクロス 2枚 (W320cm×H150cm)
写真	 ※タペストリー無しの状態  	 ※タペストリー無しの状態  	 



番号	13	14	15
名称	パイプ椅子カバー	のぼり①	のぼり②
内容	あそびのひろば会場装飾 (注) 県教委名入り	あそびのひろば会場 (コーナー) の案内	読み聞かせ会場 (コーナー) の 案内
仕様	パイプ椅子カバー 30枚 (W47cm×H60cm (背面16cm))	注水台本体 1個 注水台支柱 1個 ポール (収納ケース付) 1本 のぼり旗 (W60cm×H180cm) 1枚	注水台本体 1個 注水台支柱 1個 ポール (収納ケース付) 1本 のぼり旗 (W60cm×H180cm) 1枚
写真			

番号	16	17	18
名称	のぼり③	クッション	マグネットシート
内容	ふれあいあそび会場 (コーナー) の案内	絵本の配架や読み聞かせ会場 の装飾	子育てにおける親の喜び・ 悩み等の意見や子供の遊 び・発言等を書き出しても らう際等に活用
仕様	注水台本体 1個 注水台支柱 1個 ポール (収納ケース付) 1本 のぼり旗 (W60cm×H180cm) 1枚	全長 20cm程度 計3個	マグネットシート 計7個 記号 a～d (W15cm×H20cm) 記号 e～g (W20cm×H15cm)
写真		記号 a (ラッコ)  記号 b (かめ)  記号 c (カンガルー) 	記号 a  記号 c  記号 d  記号 e  記号 f  記号 g 

番号	19	20
名称	スタンプセット①	スタンプセット②
内容	遊びの大切さを伝えるため、スタンプラリー 一等で活用 (※スタンプラリー用の台紙も作成して いますので御希望の方は御連絡ください。)	バナー①、④～⑦とセットで親子の関わり を促すため、スタンプラリー等で活用 (※スタンプラリー用の台紙も作成して いますので御希望の方は御連絡ください。)
仕様	インク浸透印 計12個 (長柄 H11.8cm 丸型 30mm)	インク浸透印 計12個 (長柄 H11.8cm 丸型 30mm)
写真	 <p>記号 a 記号 b 記号 c 記号 d 記号 e 記号 f 記号 g 記号 h 記号 i 記号 j 記号 k 記号 l</p>	 <p>記号 a 記号 b 記号 c 記号 d 記号 e 記号 f 記号 g 記号 h 記号 i 記号 j 記号 k 記号 l</p>

## 絵本リスト

番号	年齢区分	資料名	著者	出版者	出版年
1	0-1	あかちゃんのおと	みやにしたつや/作絵	金の星社	2007
2	0-1	あがりめさがりめ	ましませつこ/絵	こぐま社	1994
3	0-1	おつきさまこんばんは	林明子/さく	福音館書店	1986
4	0-1	だるまさんが	かがくいひろし/さく	ブロンズ新社	2008
5	0-1	でてこいでてこい	はやしあきこ/さく	福音館書店	1998
6	0-1	ねんね	さえぐさひろこ/文, 細川佳/デザイン	アリス館	2004
7	0-1	びよーん	まつおかたつひで/作・絵	ポプラ社	2000
8	0-1	まるくておいしいよ	こにしえいこ/さく	福音館書店	1999
9	2-4	がたんごとんがたんごとん	安西水丸/さく	福音館書店	1987
10	2-4	しろくまちゃんのほっとけーき	わかやまけん/[絵], 森比左志/[文], わだよしおみ/[文]	こぐま社	1980
11	2-4	たまごのあかちゃん	かんざわとしこ/ぶん, やぎゅうげんいちろう/え	福音館書店	1991
12	2-4	どうぞのいす	香山美子/作, 柿本幸造/絵	ひさかたチャイルド	1981
13	2-4	みんなうんち	五味太郎/さく	福音館書店	1981
14	2-4	やさいのおなか	きうちかつ/さく・え	福音館書店	1984
15	2-4	わたしのワンピース	にしまきかやこ/えとぶん	こぐま社	1969
16	4-6	こいぬがうまれるよ	ジョアンナ・コール/文, ジェローム・ウェクスラー/写真, つばいいくみ/訳	福音館書店	1982
17	4-6	しりとりあそびしりとくる	星川ひろ子/著, 星川治雄/著	小学館	2008
18	4-6	はじめてのおつかい	筒井頼子/さく, 林明子/え	福音館書店	1977
19	4-6	ペレのあたらしいふく	エルサ・ベスコフ/さく・え, おのでらゆりこ/やく	福音館書店	1978
20	4-6	ラチとらいおん	マレーク・ベロニカ/ぶん・え, とくながやすもと/やく	福音館書店	1965

## 家庭教育支援啓発資料一覧

<p>1.まるいものをさがそう(会話)</p> 	<p>2.おなじいろをさがそう(会話)</p> 	<p>3.にている?ちがう?(会話)</p> 	<p>4.おおきい?ちいさい?(会話)</p> 
<p>5.親子でお手玉</p> 	<p>6.ふれあい体操</p> 	<p>7.絵本を通して自然の世界へ</p> 	<p>8.自然のステキを発見</p> 
<p>9.安全基地!</p> 	<p>10.親の方がのめり込み</p> 	<p>11.読み聞かせていらしい</p> 	<p>12.スキンシップがいらしい</p> 
<p>13.おひざにだっこの読み聞かせ</p> 	<p>14.ことばのプレゼント</p> 	<p>15.「だっこ」のチカラ</p> 	<p>16.ことばの扉をひらく</p> 
<p>17.「遊び」のなかに「学び」がいっぱい! 乳児(0~2歳児) シリーズ①排泄自立編</p> 	<p>18.「遊び」のなかに「学び」がいっぱい! 乳児(0~2歳児) シリーズ②指差し編</p> 	<p>19.「遊び」のなかに「学び」がいっぱい! 乳児(0~2歳児) シリーズ③繰り返し遊び編</p> 	<p>20.「遊び」は「学び」乳児(0~2歳児) シリーズ④イヤイヤ期編</p> 
<p>21.「遊び」は「学び」乳児(0~2歳児) シリーズ⑤いないいないばあ編</p> 	<p>22.「遊び」は「学び」乳児(0~2歳児) シリーズ⑥基本的な生活習慣編</p> 	<p>23.「遊び」は「学び」乳児(0~2歳児) シリーズ⑦読み聞かせ編</p> 	<p>24.「遊び」は「学び」乳児(0~2歳児) シリーズ⑧おもちゃの選択編</p> 

<p>25. 「遊び」のなかに「学び」がいっぱい！ 幼児（3～5歳児）シリーズ①着替え編</p>	<p>26. 「遊び」のなかに「学び」がいっぱい！ 幼児（3～5歳児）シリーズ②なぜなぜ編</p>	<p>27. 「遊び」のなかに「学び」がいっぱい！ 幼児（3～5歳児）シリーズ③がまん編</p>	<p>28. 「遊び」は「学び」 幼児（3～5歳児）シリーズ④ごっこ遊び編</p>
			
<p>29. 「遊び」は「学び」 幼児（3～5歳児）シリーズ⑤好きを見つける編</p>	<p>30. 「遊び」は「学び」 幼児（3～5歳児）シリーズ⑥基本的な生活習慣編</p>	<p>31. 「遊び」は「学び」 幼児（3～5歳児）シリーズ⑦スマートフォン編</p>	<p>32. 「遊び」は「学び」 幼児（3～5歳児）シリーズ⑧遊びへの大人の関わり編</p>
			
<p>33. あかちゃんへことばのプレゼント</p>			
			

# あそびのひろば 実践ハンドブック

令和5年9月

〒730-8514 広島市中区基町9-42

広島県教育委員会乳幼児教育支援センター

家庭教育支援担当

電話番号 082-513-5013

電子メール [kyoyoujic@pref.hiroshima.lg.jp](mailto:kyoyoujic@pref.hiroshima.lg.jp)